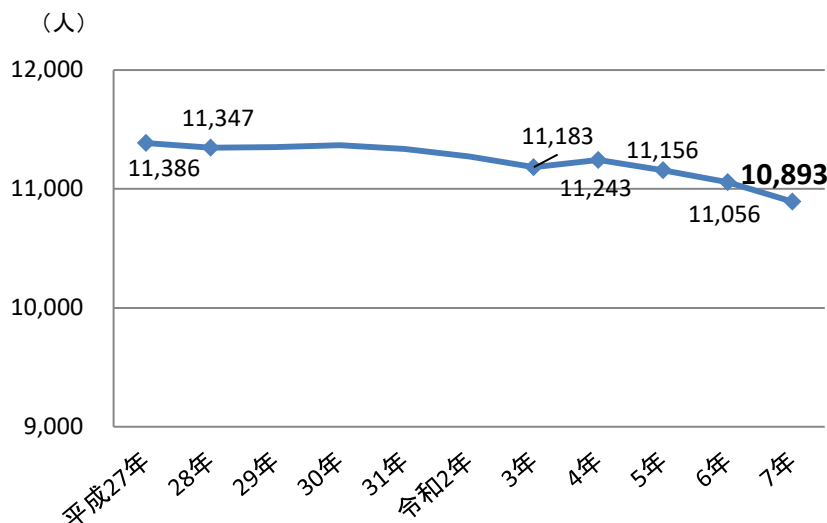


評価指標／こども

◆(1)年少人口(15歳未満)の住民基本台帳人口



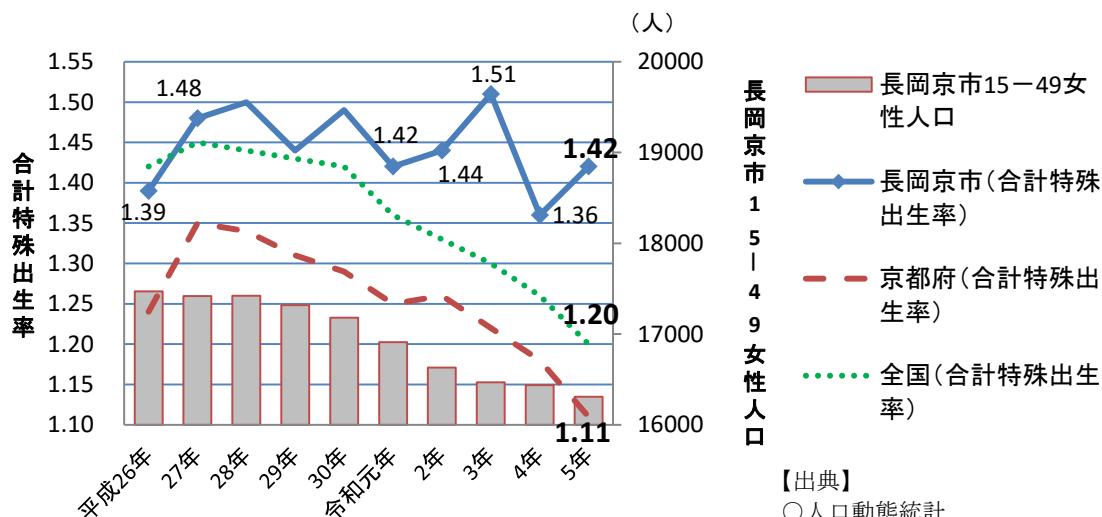
【傾向】

平成23年以降はおよそ11,000人台で推移していたが、令和7年に11,000人を下回った。

【出典】

長岡京市住民基本台帳

◆(2)合計特殊出生率



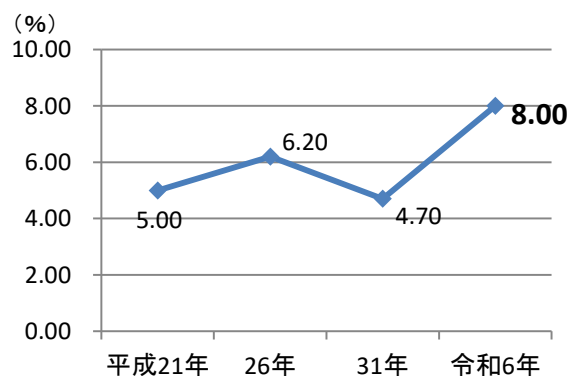
【傾向】

本市の合計特殊出生率は、国や京都府の数値を上回っており、出生数が前年より増え、令和5年は比率も上昇している。

【出典】

○人口動態統計
○住民基本台帳
(長岡京市15-49女性人口)
※令和6年は令和8年8月頃発表予定

◆(3)子育てに「非常に不安や負担を感じる」と回答した割合



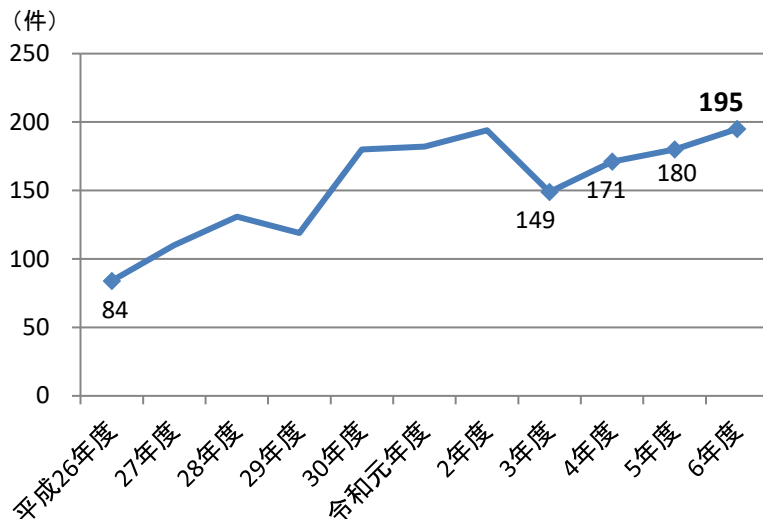
【傾向】

平成31年調査で一旦比率は下降したものの、再び上昇している。一方で、「不安や負担は全く感じない」割合も比率が上昇し、「非常に感じる」と同じ8.0%となっている。

【出典】

○長岡京市こども計画及び第3期子ども・子育て支援事業計画にかかるアンケート調査結果報告書(令和6年5月)

◆(4)虐待ケースの年度新規受理件数



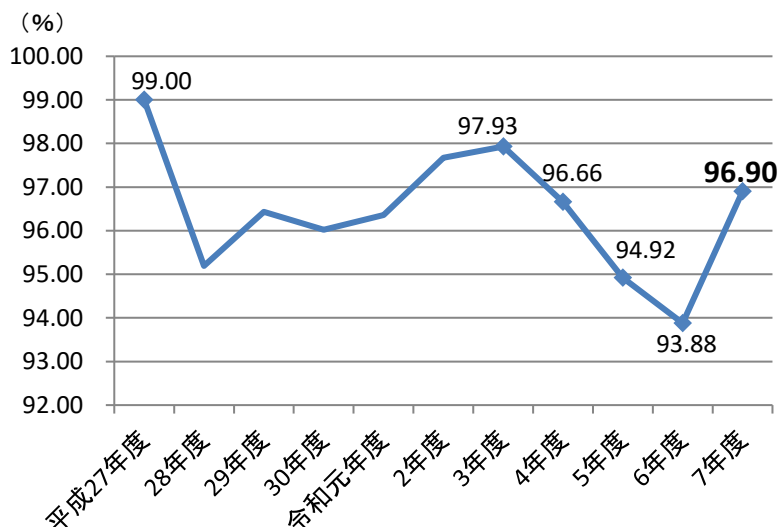
【傾向】

令和6年度の新規受理件数は前年度よりも増加し、ここ数年は180件程度を平均に増減している。全国の児童相談所の受理件数は増加傾向にある。

【出典】

福祉行政報告例

◆(5)保育所希望入所率



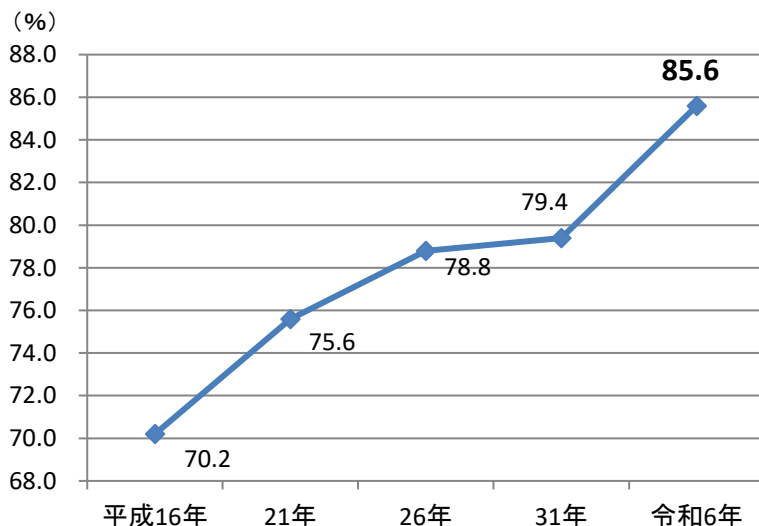
【傾向】

令和7年度より新規保育施設2園を開設し入所枠を増やしたことで、前年度より比率は上昇した。今後も保育ニーズに対応できるよう、既存園の増築及び幼稚園のこども園化を目指す。育児休業延長希望者や特定の保育施設を希望する保護者が存在するため、今後も比率が100%になる見込みはない。

【出典】

保育所入所申込等の状況を基に算出

◆(6)保育施設に関する満足度



【傾向】

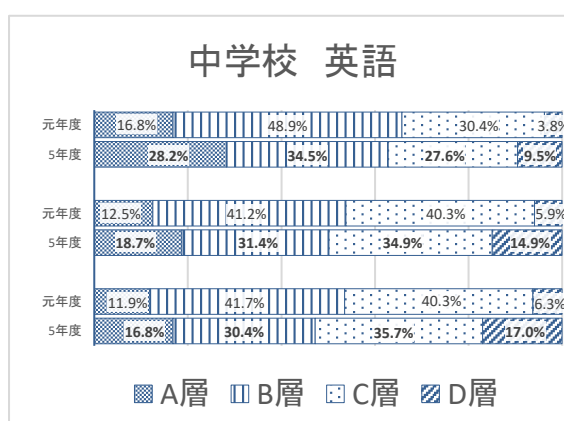
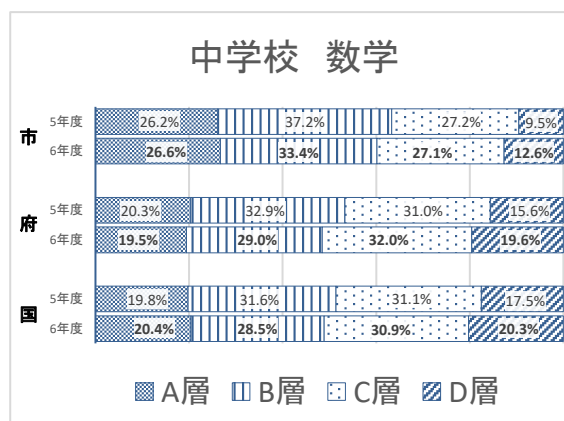
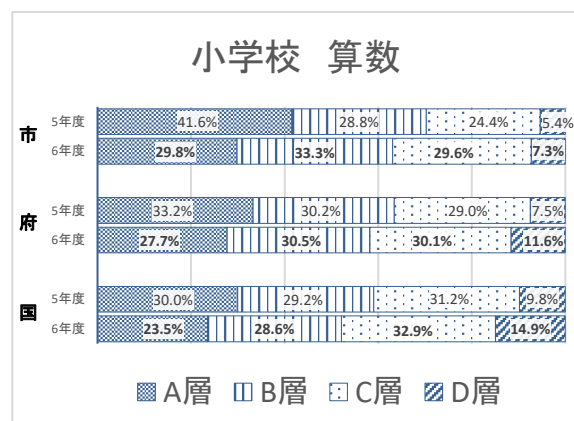
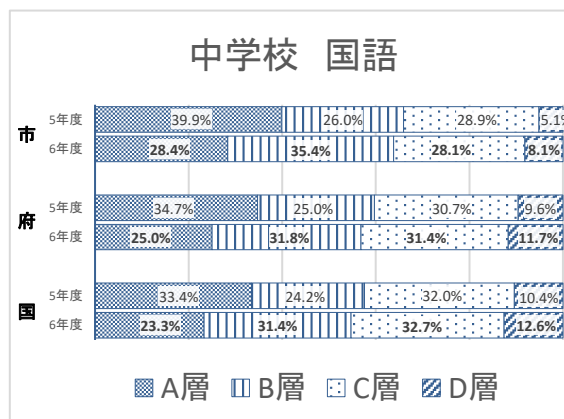
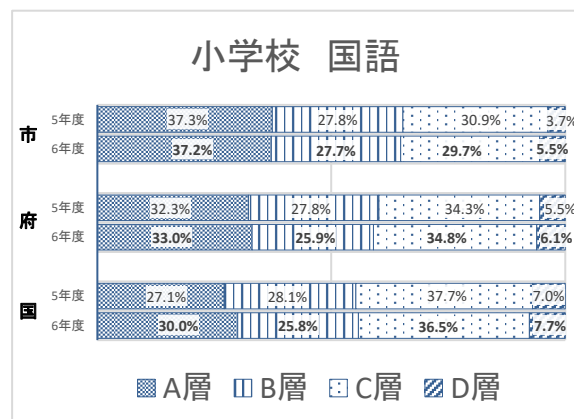
施設・環境に対する満足度が大きく上昇しているほか、保育内容や衛生対策をはじめ、全体として満足度は上昇している。

【出典】

○長岡京市こども計画及び第3期子ども・子育て支援事業計画にかかわるアンケート調査結果報告書(令和6年5月)

◆(7)全国学力学習状況調査の正答数分布状況

A層：全国平均正答数以上のうち、上位（平均正答数と満点の間以上）
 B層：全国平均正答数以上のうち、下位（平均正答数と満点の間以下）
 C層：全国平均正答数以下のうち、上位（平均正答数の1/2以上平均正答数以下）
 D層：全国平均正答数以下のうち、下位（平均正答数の1/2以下）



【傾向】

小学校、中学校ともに、全国や京都府と比較して、学力上位層の割合が多く、学力低位層の割合が少なくなっている。

【出典】

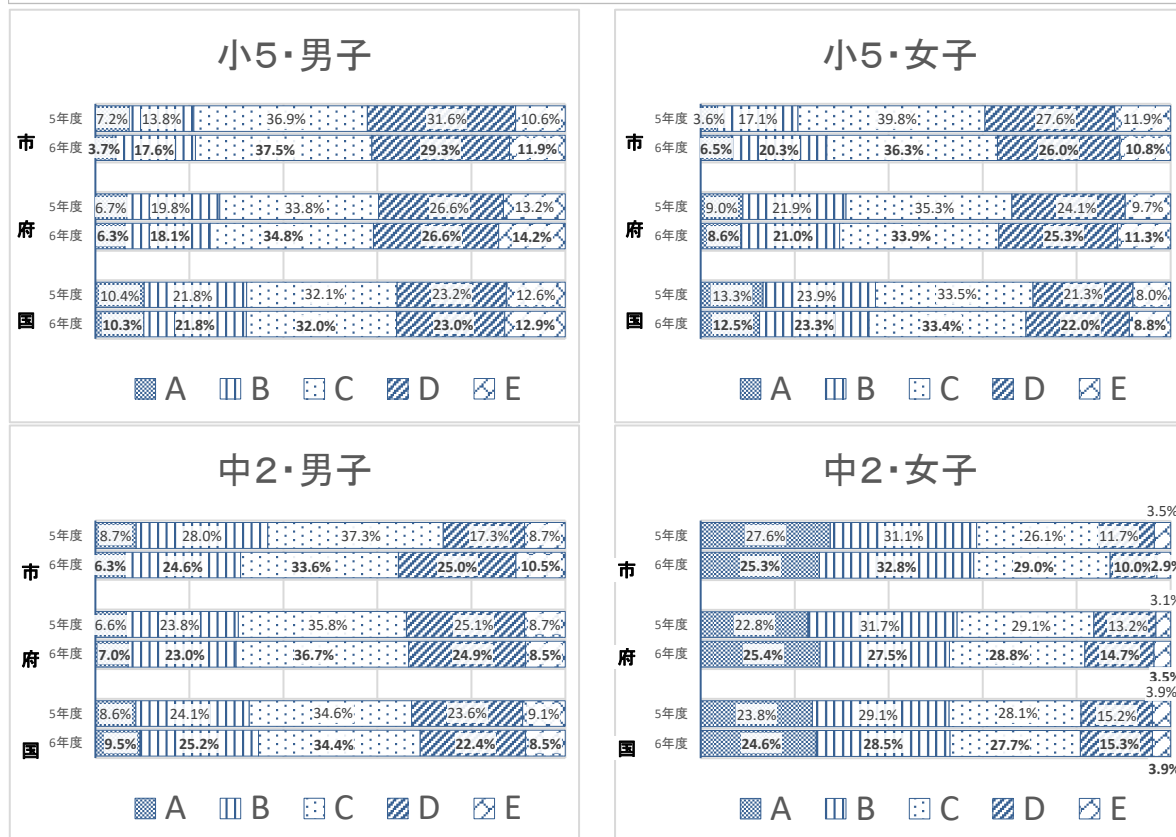
全国学力・学習状況調査
 ※中学校 英語は、3年に1回程度実施

◆(8)新体力テストの総合評価値分布状況

新体力テスト（8種目）の合計得点により、次の区分で総合評価を判定。

【小学校5年生】A=65点以上、B=58～64点、C=50～57点、D=42～49点、E=41点以下

【中学校2年生】A=57点以上、B=47～56点、C=37～46点、D=27～36点、E=26点以下



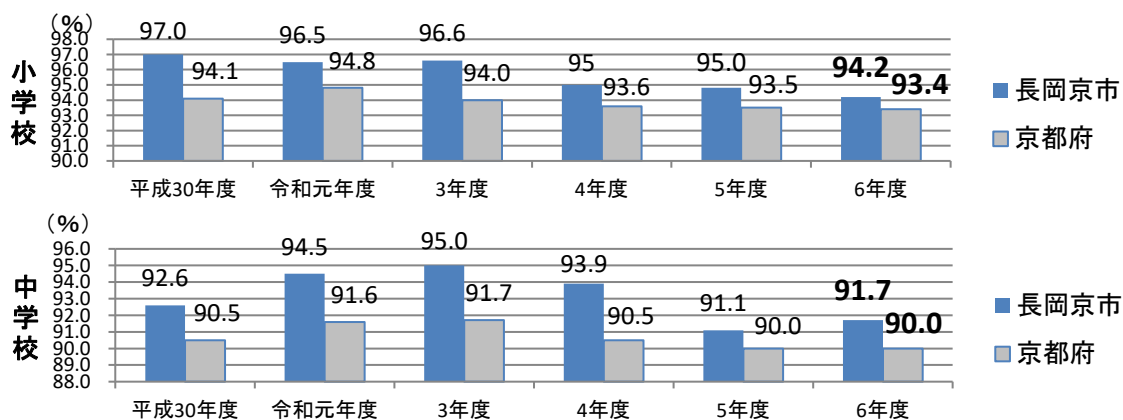
【傾向】

小5・男子、小5・女子、及び中2男子ともに、A評価においても、C評価以上においても国、府より低く、国、府と比べて体力が劣っている傾向にある。
中2・女子は、A評価において府より劣っているが、C評価以上においては、国、府より高く、体力が優れている傾向にある。

【出典】

新体力テスト結果

◆(9)朝食を毎日食べている児童・生徒の割合



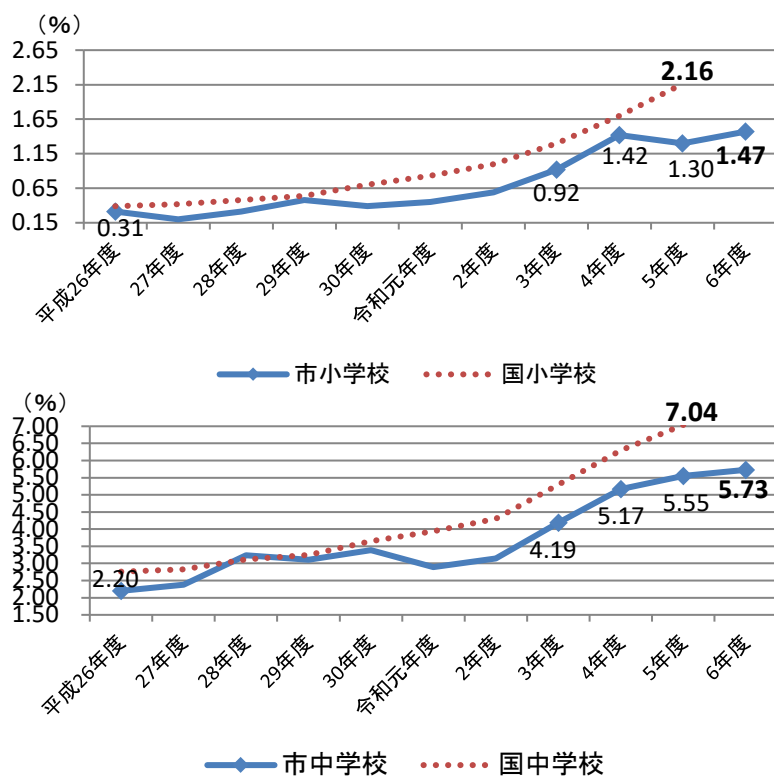
【傾向】

小中学校とも、引き続き京都府の平均を上回っており、市内の多くの児童生徒が朝食を食べている。また、平成25年度以降、9割以上の水準を保っている。

【出典】

全国学力学習状況調査の児童生徒質問用紙より抽出(調査対象は小学校6年生、中学校3年生)

◆(10)小中学校における不登校出現率



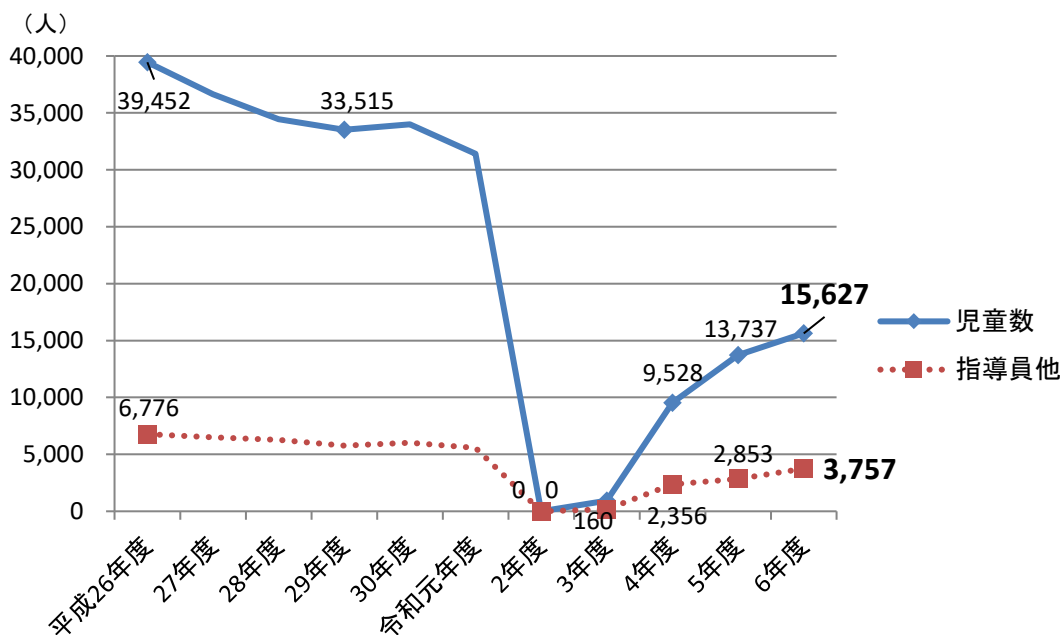
【傾向】

小学校、中学校ともに国を下回っているが、共に増加傾向にある。

【出典】

文部科学省児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査
※令和6年度(国)は令和7年10月発表予定

◆(11)すくすく教室に参加する児童数と活動に協力する大人の数



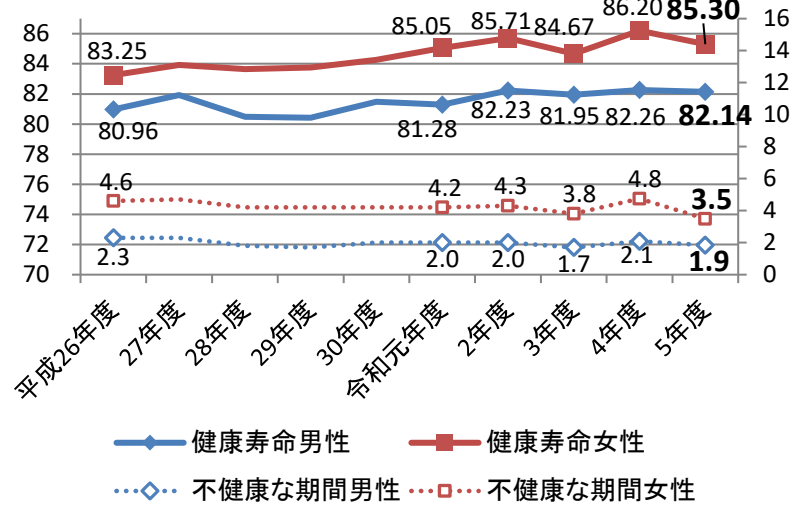
【傾向】

令和6年度の、すくすく教室の開催日数、ボランティア数、参加児童数は前年度よりさらに増加している。

評価指標／くらし

◆(12)健康寿命

(歳)



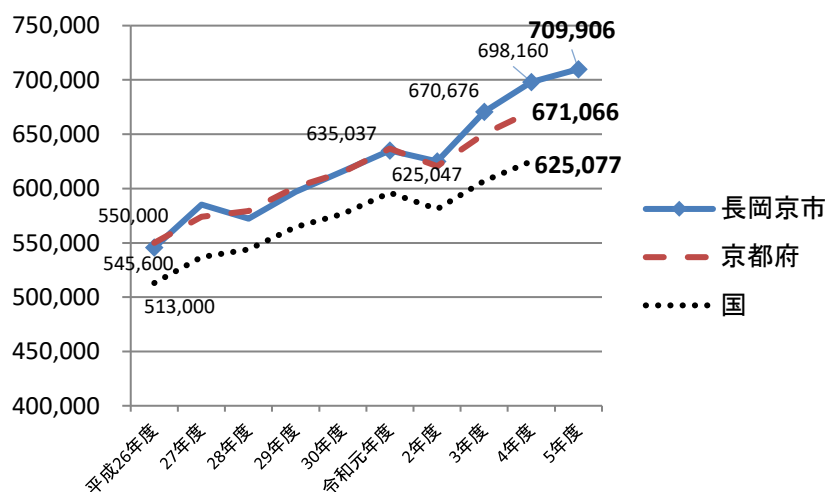
【傾向】

健康寿命の5年平均値はなだらかに延伸しており、不健康な期間は短縮している。

※厚生労働科学研究「健康寿命に関する研究成果公開ホームページ」-「健康寿命算定プログラム」を用いて算出
※「不健康な期間」とは、平均寿命と健康寿命の差を指す。
※令和6年度分は令和8年4月頃発表予定

◆(13)一人当たりの医療費の状況(国保＋後期高齢)

(円)



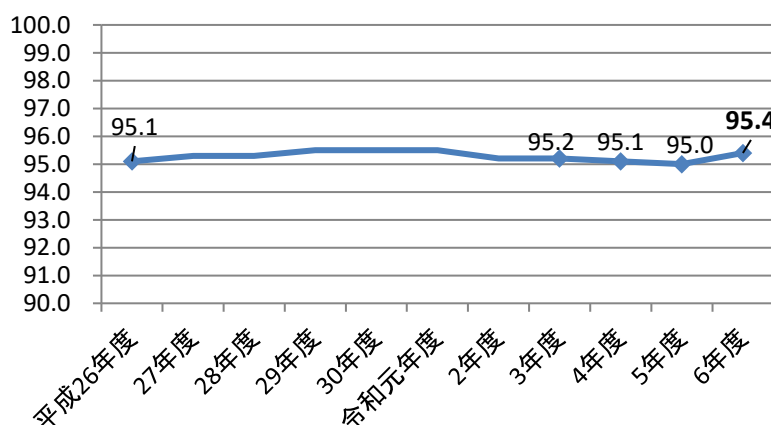
【傾向】

一人当たり医療費は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響により一時的に減少したものの、平成29年度以降、医療の高度化や被保険者の高齢化に伴い増加傾向にある。

【出典】 国保:国民健康保険事業状況報告書 後期高齢:後期高齢者医療概況

◆(14)元気な高齢者の割合(65～74歳の要介護(要支援)認定を受けていない者の割合)

(%)

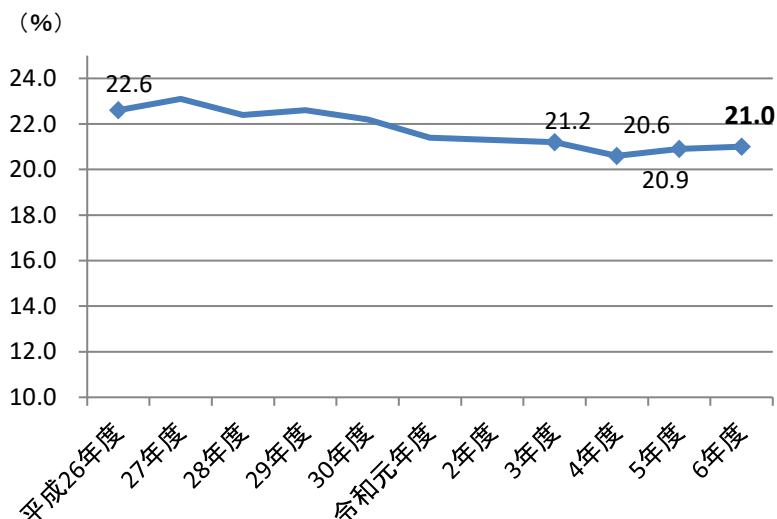


【傾向】

元気な高齢者の割合は、95%台で10年間推移している。

※独自計算により算出

◆(15)第1号被保険者(75～84歳)における要介護(要支援)認定率

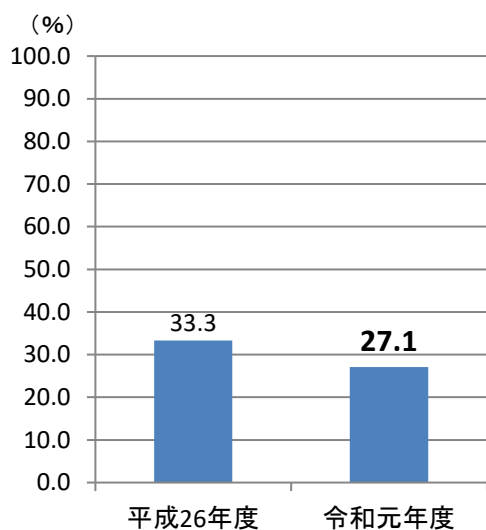


【傾向】
平成18年度以降、
認定率は横ばい
傾向であり、大き
な変化はない。

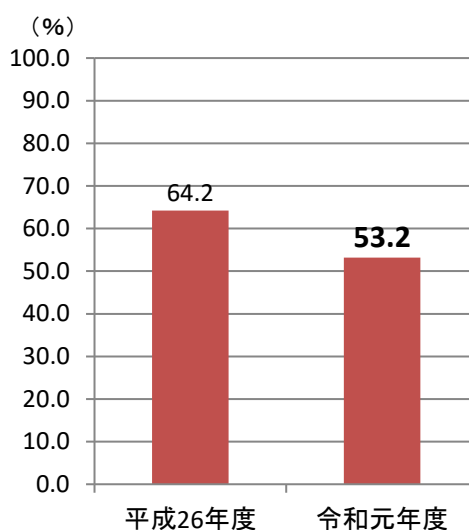
※独自計算により算出

◆(16)障がい者(児)に対する「生活に必要な支援のニーズ」について問うアンケートで、

①「障がい者にとって住みやすい家が準備されていること」が選択された割合



②「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が選択された割合

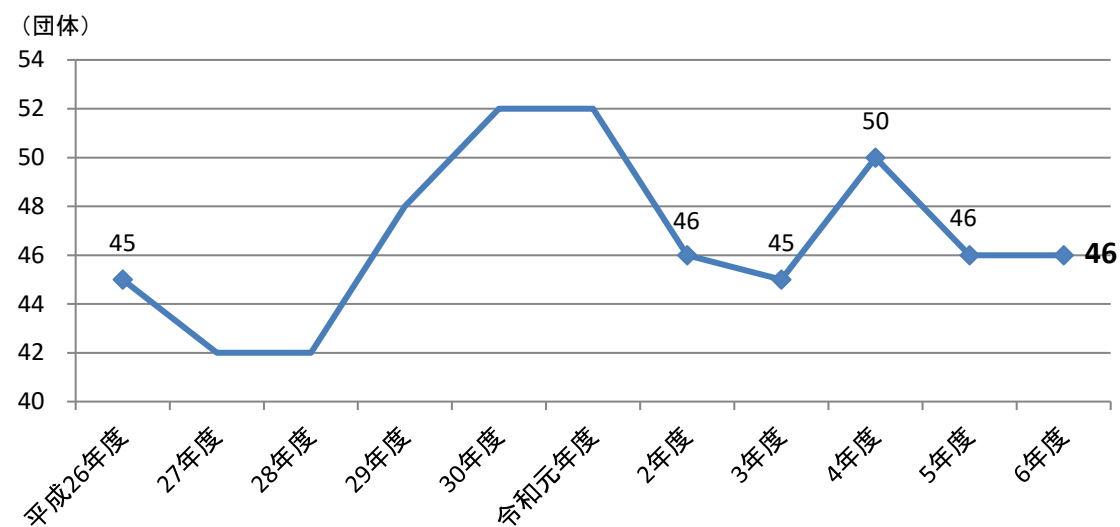


【出典】
障がい福祉に関するアンケート調査
※5年毎に調査

【傾向】

・この設問には、例えば「生活に必要なお金の負担が軽減されること」や「相談できる場所や人等が充実していること」など12項目あり、複数選択可能である。
・その中で①の「障がい者にとって住みやすい家が準備されていること」と回答された割合は減少傾向にあるものの、約4分の1の人が住まいに何らかの支援を求めている。同時に②「必要な福祉サービスが適切に利用できること」との回答割合も減少傾向ではあるものの、半数以上の人が必要な福祉サービスの適切な利用を望んでいる。

◆(17)社会福祉協議会のボランティア登録団体数



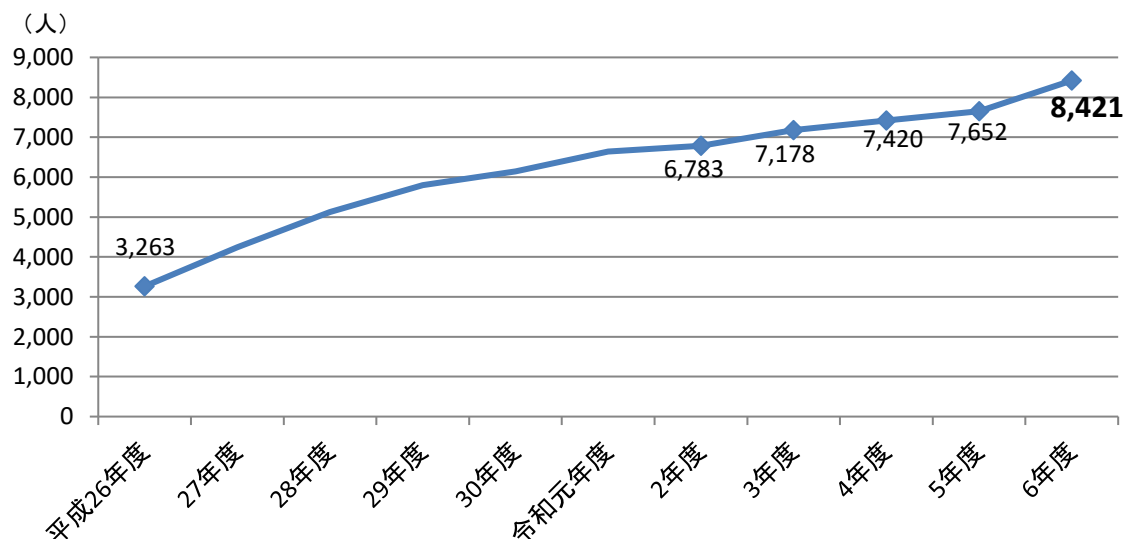
【傾向】

・社会福祉協議会のボランティアセンターから各種情報提供や助成金等の活動支援を受けている既存の団体の登録が継続している。

【出典】

社会福祉協議会

◆(18)認知症サポーター養成受講者数(延べ人数)



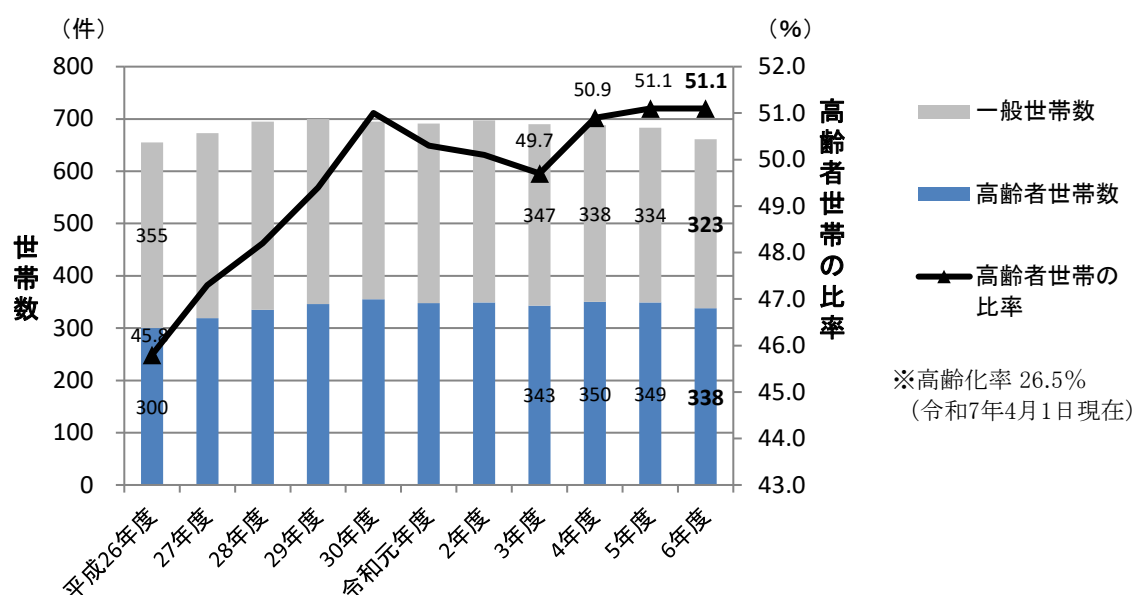
【傾向】

自治会や高齢者のサークル、スーパーの従業員、理容組合、病院・施設職員、市の新人職員他、幅広い世代に向けて講座を開催している。

【出典】

東地域包括支援センター(基幹型)による報告

◆(19)生活保護世帯に占める高齢者世帯数



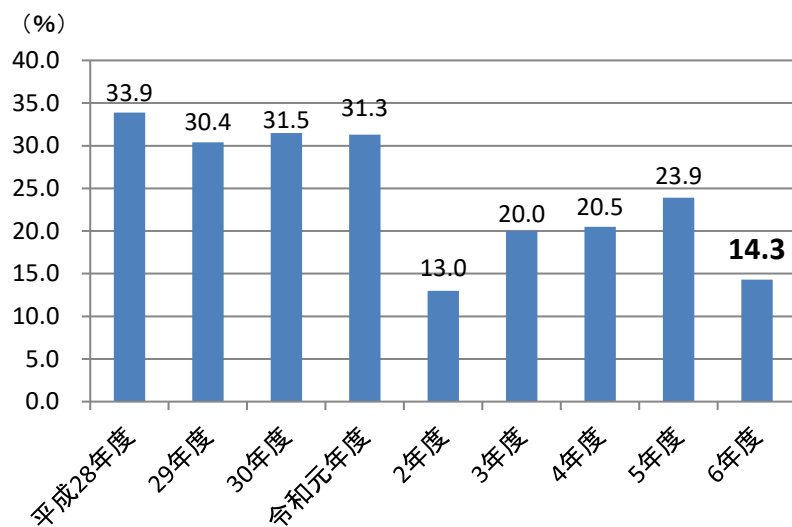
【傾向】

大きな変動はなし。

【出典】

厚生労働省被保護者調査

◆(20)就労支援対象者の一般就労への移行率



【傾向】

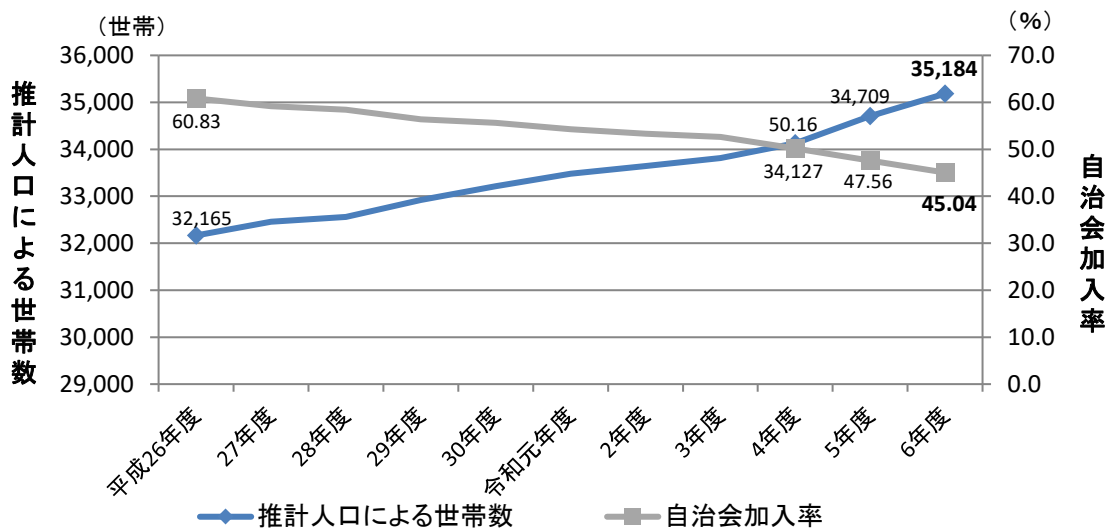
有効求人倍率は、コロナ禍前の水準に回復しつつある(令和元年度1.41→6年度1.31)。令和6年度は、前年度に引き続き、就労支援員・ケースワーカーが受給者に寄り添い面談を行ったほか、支援機関との連携や同行支援などに取り組んだが、受給者の求める仕事が見当たらないことやスキル面などから、数値は向上しなかった。

【出典】

長岡京市就労促進計画

評価指標／かがやき

◆(21) 自治会加入率



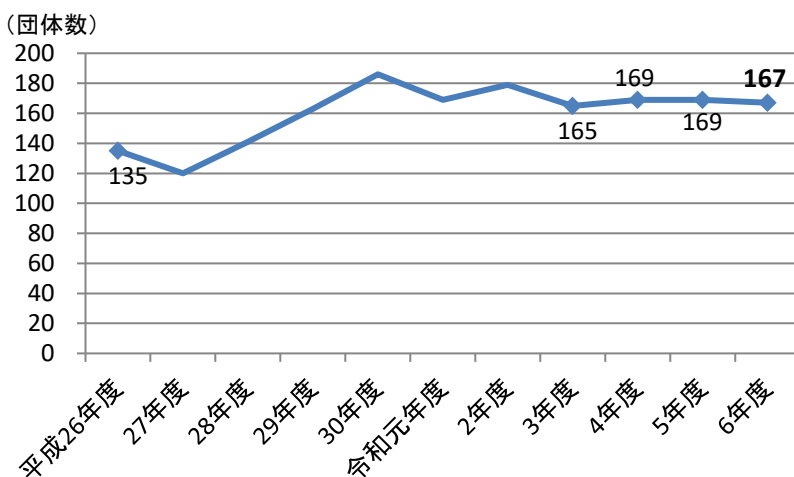
【傾向】

国勢調査では、単身世帯が増加している。また大型マンションや開発地が自治会未組織となるケースが増えている。既存自治会からの脱会、未加入者も増加している。

【出典】

- ・国勢調査を基準にした推計人口による世帯数
- ・自治会加入率調査

◆(22) 市民活動サポートセンター登録団体数



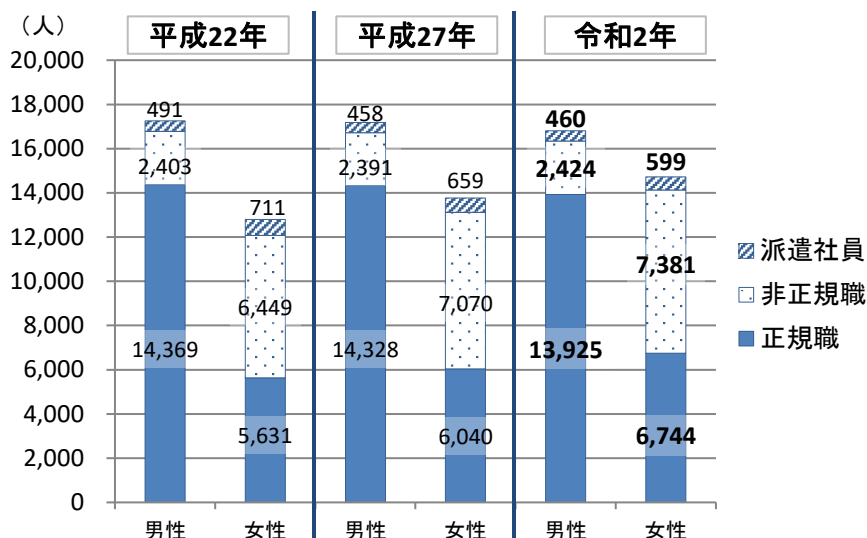
【出典】

令和6年度市民活動サポートセンター指定管理者事業報告書

【傾向】

市民活動サポートセンターの登録団体数は前年度とほぼ同数。一定の団体の入れ替わりはありつつも、ここ数年同数程度の推移となっている。

◆(23) 市内在住者における正規職・非正規職・派遣社員の割合



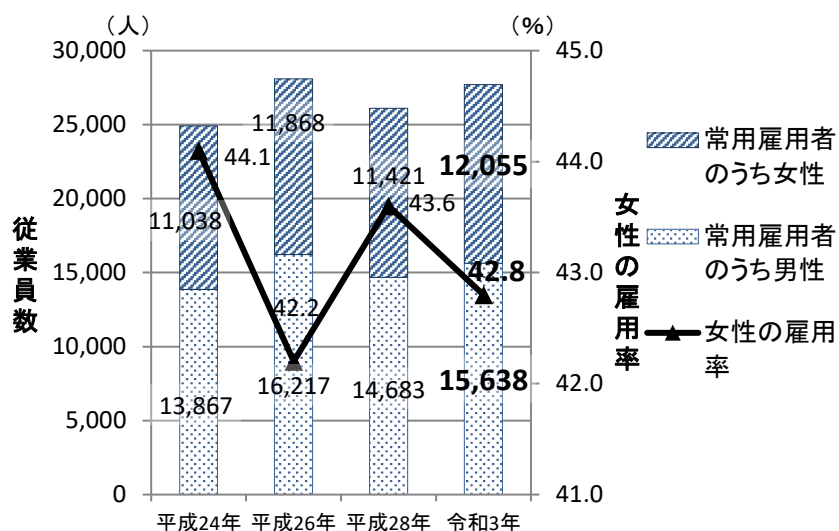
【傾向】

女性の雇用者数は継続して増加傾向であり、女性の正規職は増加しているが、男性と比べると非正規職の割合が依然として高い。

【出典】

国勢調査の「従業上の地位」
※不詳分を除く
※5年毎に調査

◆(24) 市内事業所における女性の常用雇用者数及び雇用率



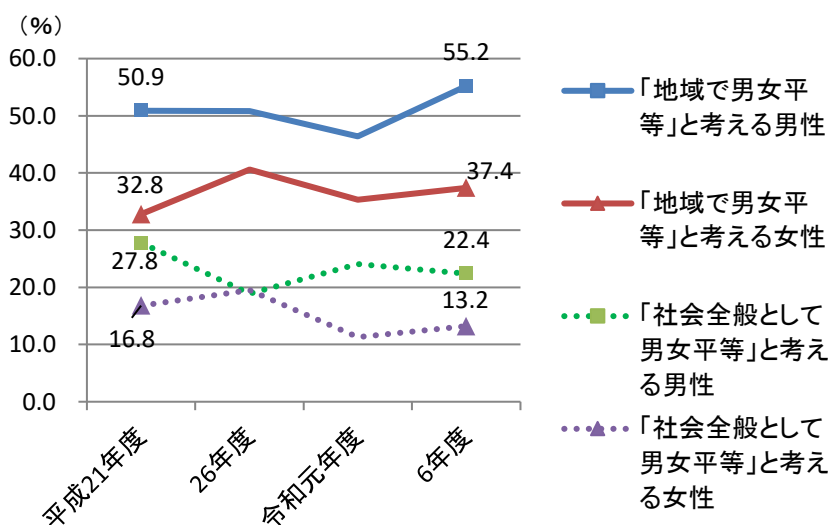
【傾向】

市内の事業所における常用雇用者数は、市内事業所数の増加に伴い、男女共に増加している。常用雇用者における女性の雇用率は下降している。

【出典】

経済センサス基礎調査
経済センサス活動調査
※5年毎に調査

◆(25) 「地域で」「社会全般として」男女が平等になっていると考える市民の割合<男女ごと>



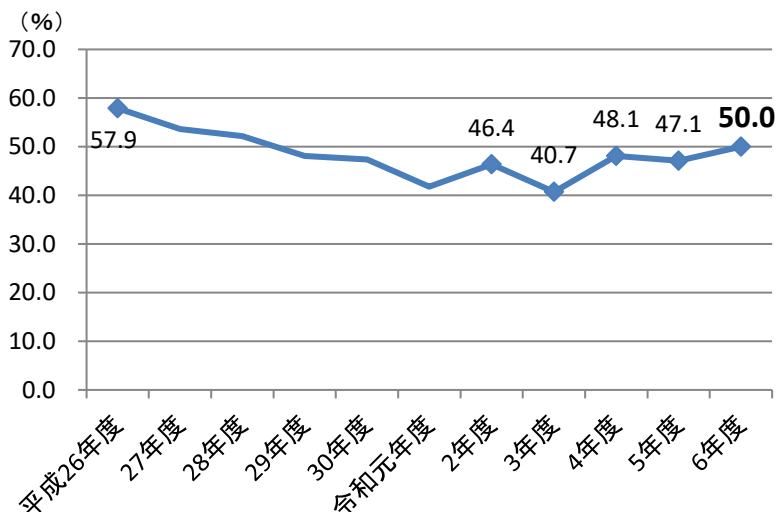
【傾向】

男性では「地域で男女平等」と考える割合が増加し、女性では「地域で男女平等」「社会全般で男女平等」と考える割合がともに増加した。

【出典】

令和6年度男女共同参画社会についての市民意識調査
※5年毎に調査

◆(26) 審議会等における女性委員の割合が40%～60%の審議会等の割合



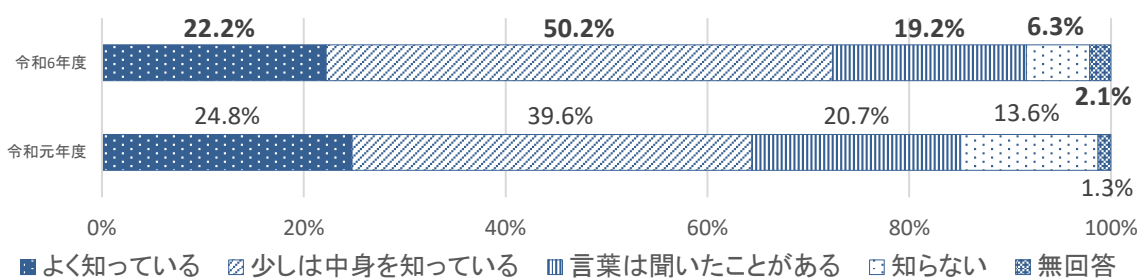
【傾向】

・委員の選出を依頼する各団体の男女比率に偏りがあることから、年度により割合が増減する傾向があるが、令和6年度は増加となった。

【出典】

長岡京市男女共同参画計画 第7次計画 進行管理報告書

◆(27) LGBT(性的少数者)という言葉の認知度



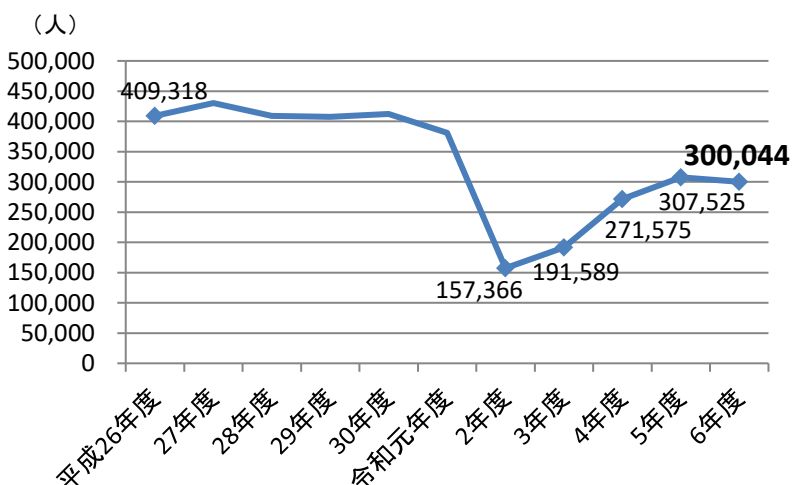
【傾向】

近年、性の多様性への理解は広がりつつあり、LGBT(性的少数者)という言葉の認知度も9割以上と高くなっている。

【出典】

令和6年度男女共同参画社会についての市民意識調査
※5年毎に調査

◆(28) 主な社会教育施設の利用者数

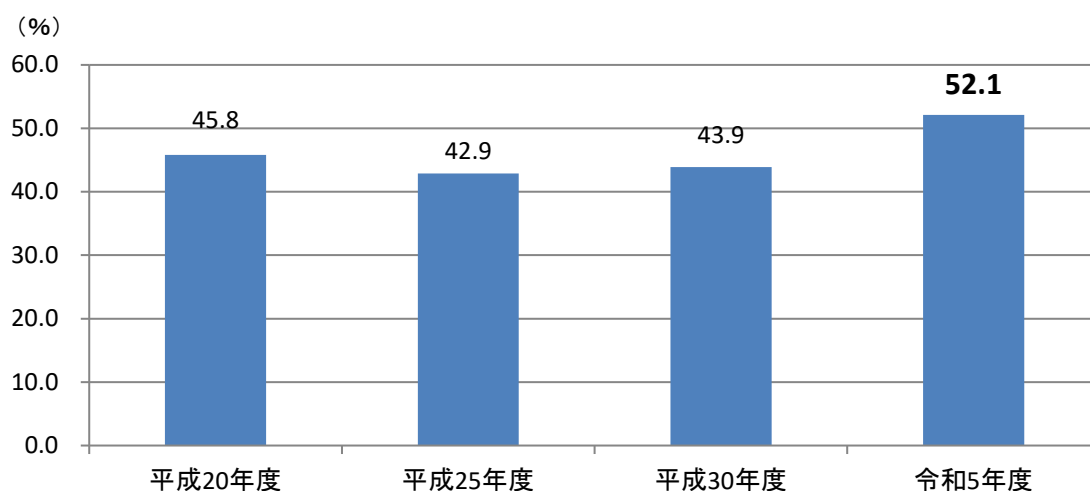


【傾向】

コロナ禍で低下した利用者数は、回復傾向にある。

※利用者数は、中央生涯学習センター・社会教育ホール・市民ホール・多世代交流ふれあいセンター・産業文化会館の利用者数の合計

◆(29) 市民スポーツ実施率



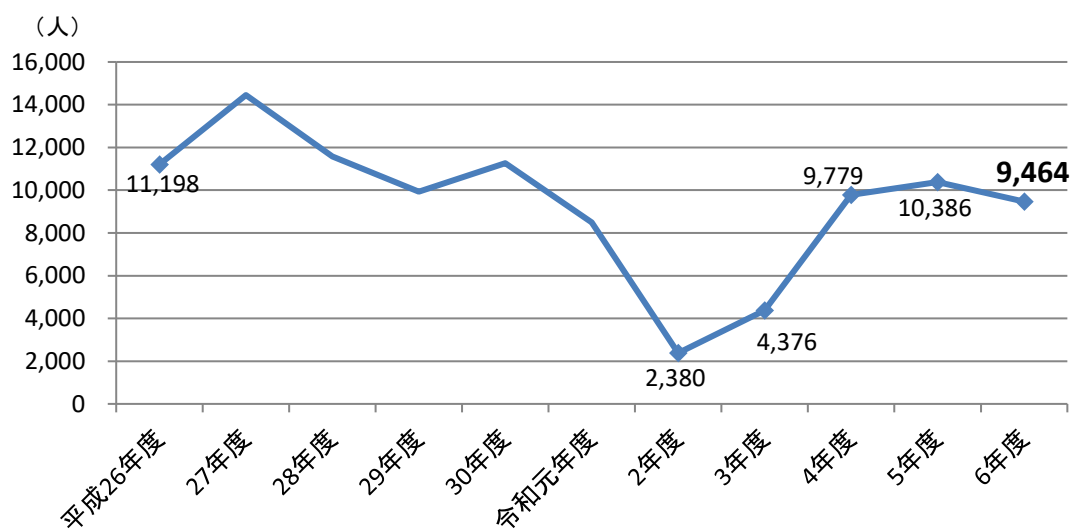
【傾向】

市民スポーツ実施率は、増加傾向にある。

【出典】

長岡京市スポーツに関する市民意識調査
※5年毎に調査

◆(30) 文化まつり等文化事業における参加者数(出品者・出演者・鑑賞者)



【傾向】

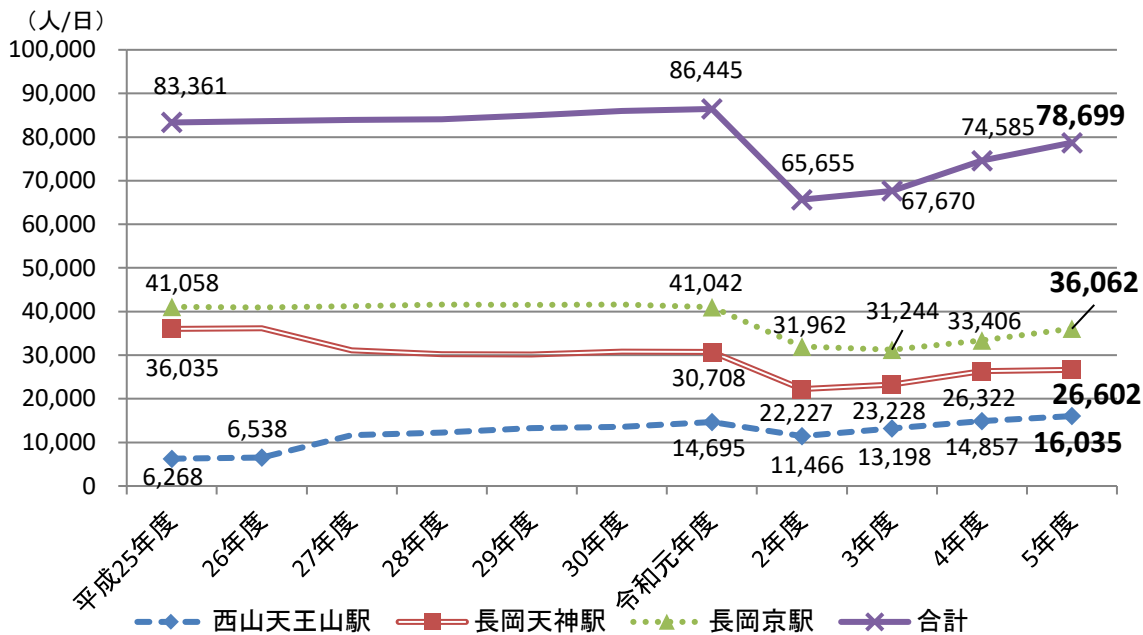
徐々に事業が平常に開催されたことに伴い、コロナ禍前の水準に回復しつつある。

【出典】

長岡京市文化協会事業報告、乙訓文化芸術祭事業実施報告書、公民館サークル連絡協議会報告

評価指標／まち

◆(31) 鉄道三駅乗降客数



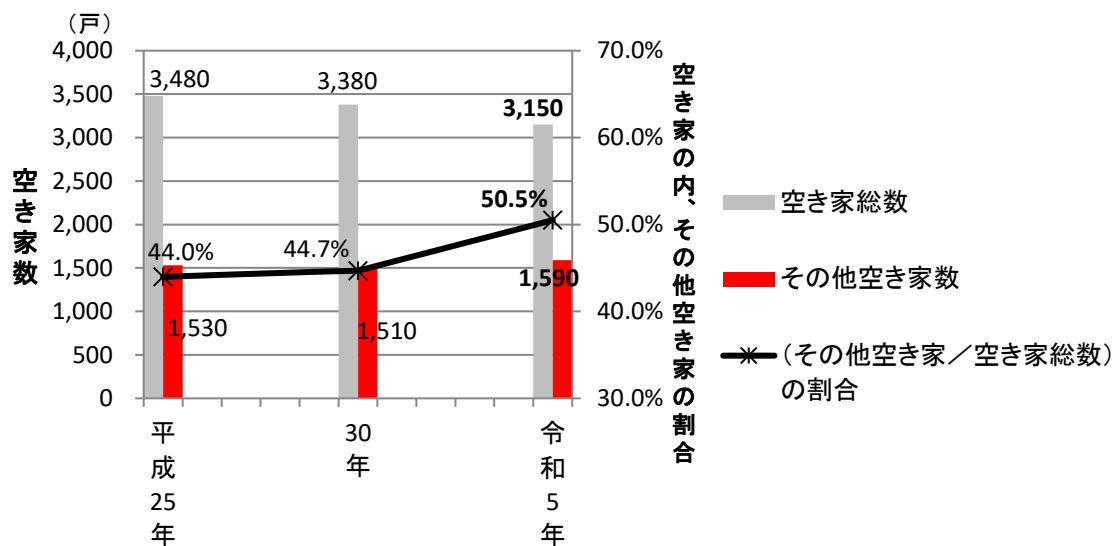
【傾向】

西山天王山駅は新型コロナウイルス禍前を上回る利用者となっており、他の二駅も回復傾向にある。

【出典】

長岡京市統計書
※令和6年は8年4月発表予定

◆(32) 市内空き家数(その他空き家数・空き家率)



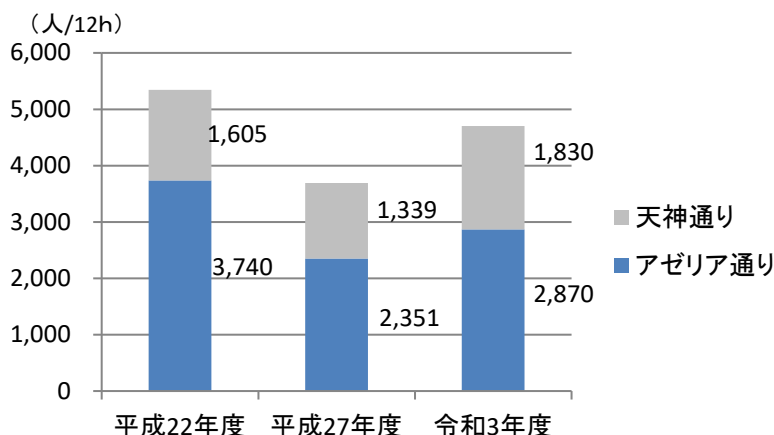
【傾向】

空き家数は減少しているものの、その他空き家数は増加しており、「空き家数に対するその他空き家数の割合」は増加傾向にある。

【出典】

住宅・土地統計調査
※5年毎に調査
※その他空き家数とは、賃貸や売却予定を除いたその他住宅の空き家数を指す。
※令和10年調査結果は、11年9月頃発表予定

◆(33)市街歩行者数(アゼリア通り・天神通り)



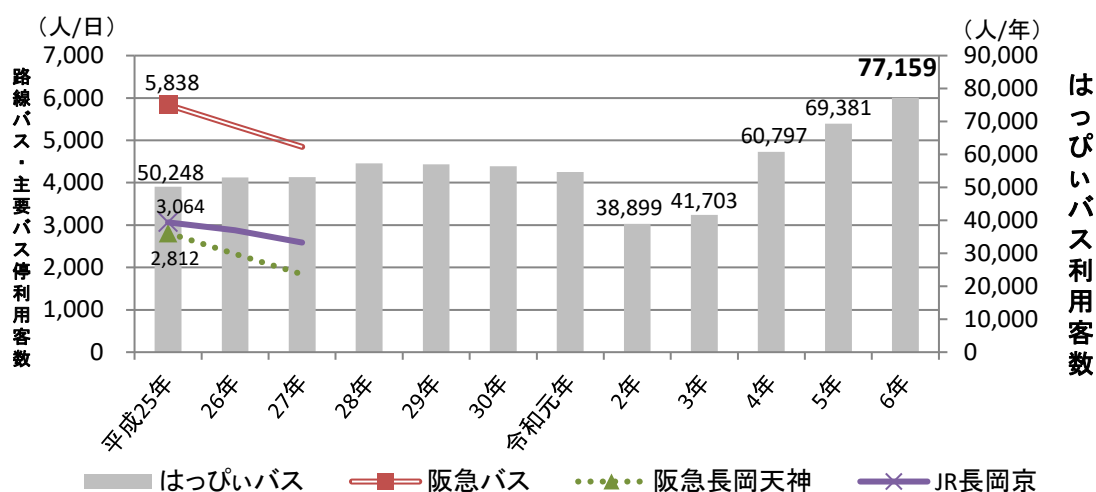
【傾向】

平成25年の阪急西山天王山駅開業以降、歩行者数は減少傾向にあったが、増加に転じた。

【出典】

令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果 ※5年毎に調査

◆(34)はっぴいバス・路線バス利用者数

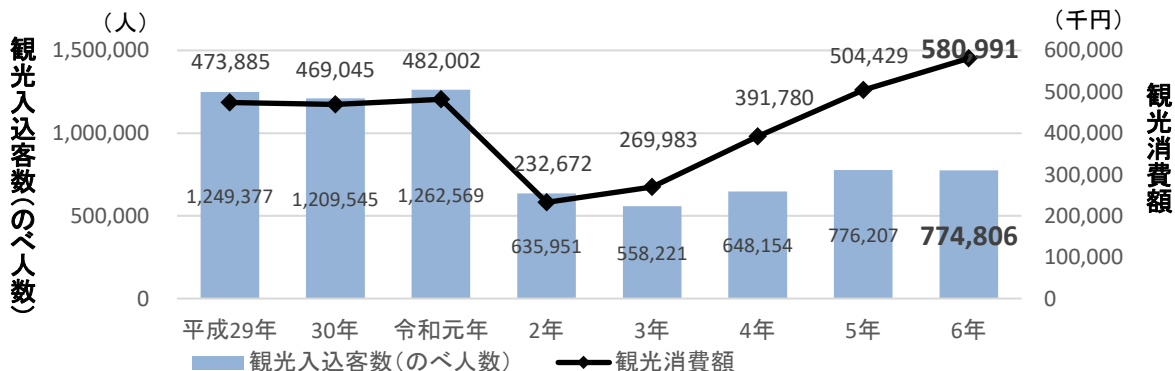


【傾向】

令和4年6月の3ルート化によりコロナ禍以前よりも増加している。

※路線バス利用者はH28から調査なし

◆(35)観光入込客数・観光消費額(日帰)



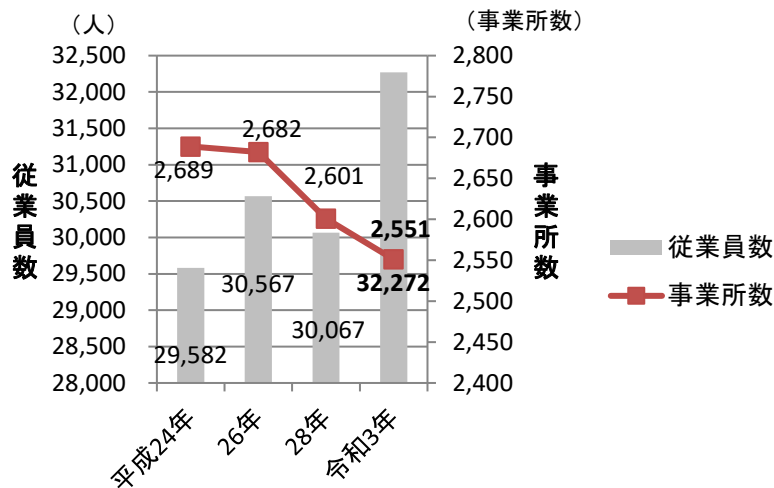
【傾向】

・入込客数は、前年比で約0.2%の減少となった。辰年であったことによる龍に関係する寺への来訪者の増加や、各種観光イベントの再開等の増加要因もあったが、市内で実施されている工場見学の受入人数の削減等の影響もあり、通年でほぼ横ばいの結果となった。
・観光消費額は、海外旅行会社との商談を契機とした高単価の飲食店へのインバウンドの流入や、観光周遊施策のスポットに設定された小売店の売上の増加や、工場見学を実施している企業のファクトリーショップに市の特産品販売コーナーができたことが主要な要因となり、前年比で約15%の増加となった。

【出典】

観光入込客統計に関する共通基準により算出

◆(36)市内民営事業所数・従業員数の推移



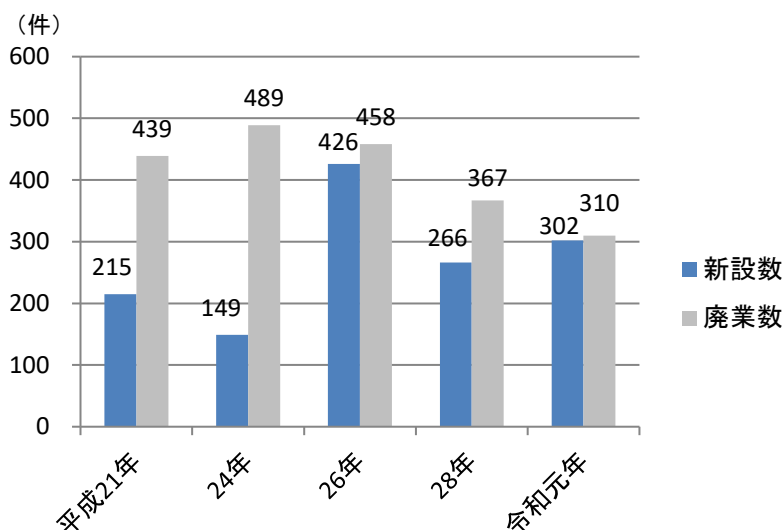
【傾向】

事業所数は年々減少している。従業員数は増減を繰り返しているが、令和3年は増加している。

【出典】

経済センサス活動調査
経済センサス基礎調査
令和元年は調査項目なし
次回発表の指標数値は令和8年度予定

◆(37)新たな起業者数(新設・廃業)



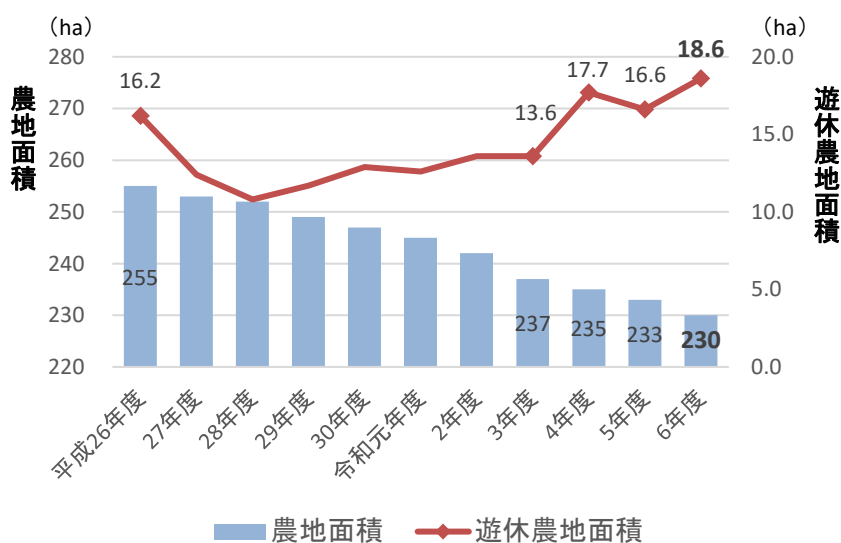
【傾向】

令和元年の新設事業者数は平成28年と比べて増加しており、廃業事業者数は平成24年から減少傾向となっている。

【出典】

経済センサス基礎調査
経済センサス活動調査
令和3年以降、調査項目なし

◆(38)農地面積と遊休農地面積



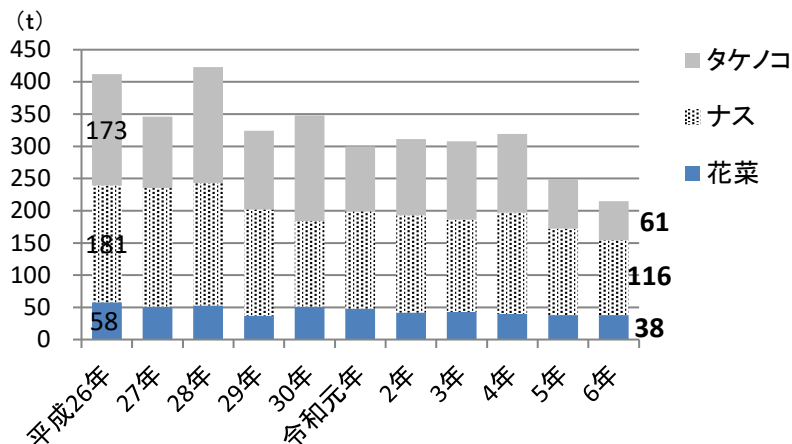
【傾向】

・長岡京市の農地面積は、宅地への転用等で、この10年間で約10%減少している。今後も開発に伴う農地転用から農地面積は減少が続くことが予想される。
・遊休農地は高齢化や担い手不足により、減少することが困難な状況にある。

【出典】

固定資産税台帳
遊休農地に関する措置の報告

◆(39)主要作物(花菜・ナス・タケノコ)の出荷量



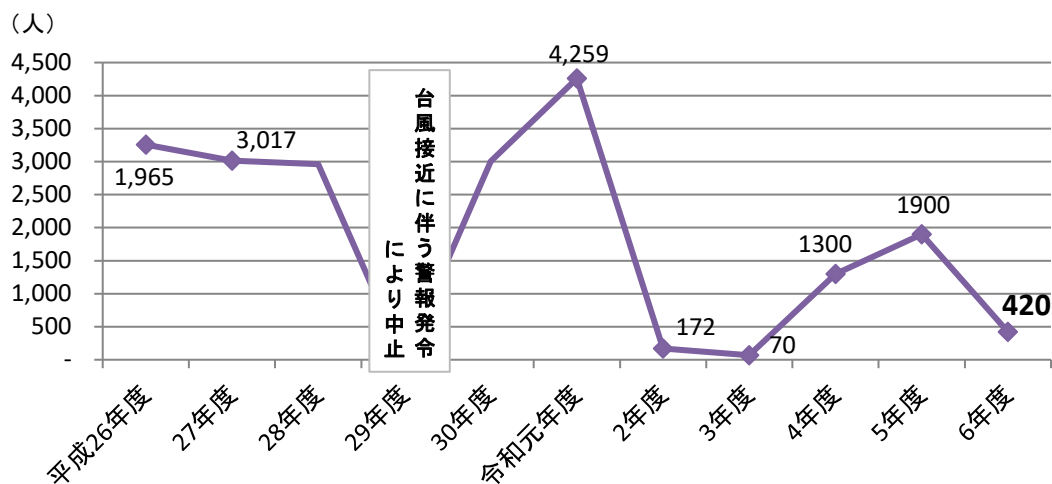
【傾向】

・豊作や不作の年があるが、農家数・農業就業者数の減少や農地面積の減少、昨今の気候変動や病害虫等の影響により、出荷量は減少傾向にある。

【出典】

JA京都中央

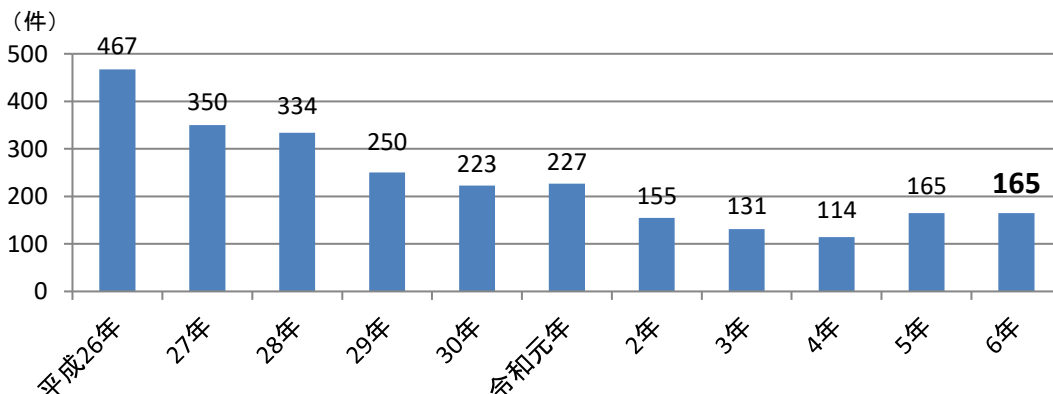
◆(40)防災訓練参加人数



【傾向】

衆議院議員総選挙と同日開催となったため、令和6年度の防災訓練は中止となったが、一部の校区では規模を縮小、または延期して実施した。

◆(41)市内での窃盗犯認知件数



【傾向】

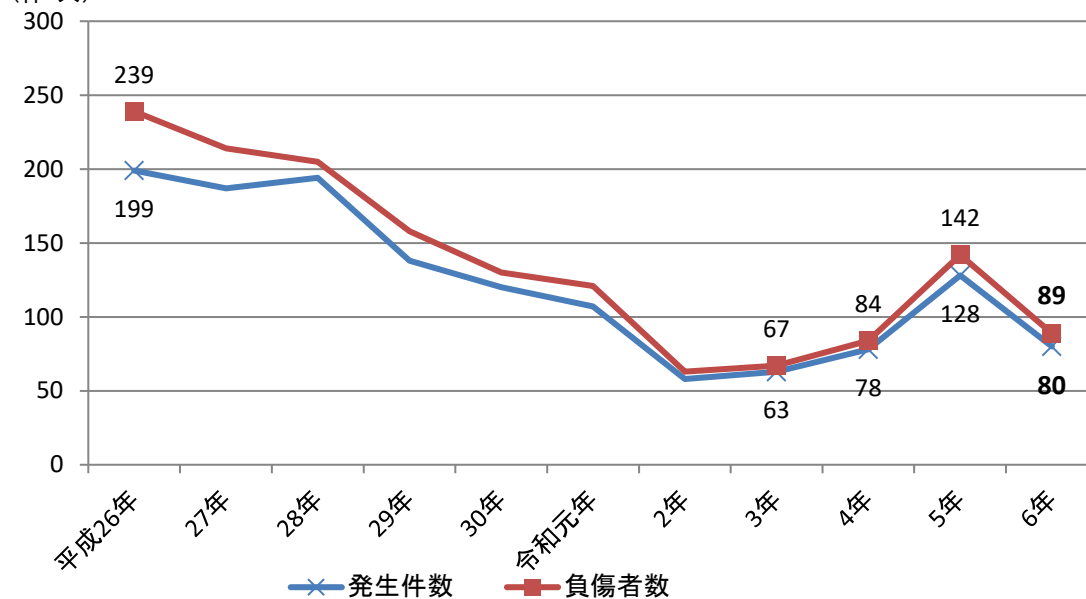
新型コロナウイルス感染症の5類移行後、全国の刑法犯認知件数は増加している。本市においても窃盗犯(自転車盗、非侵入盗等)の件数が増加傾向にあり、また、特殊詐欺の発生も多く、特に高齢者が被害を受ける傾向が高くなっている。

【出典】

向日町警察署

◆(42)市内交通事故件数・負傷者数

(件・人)



【傾向】

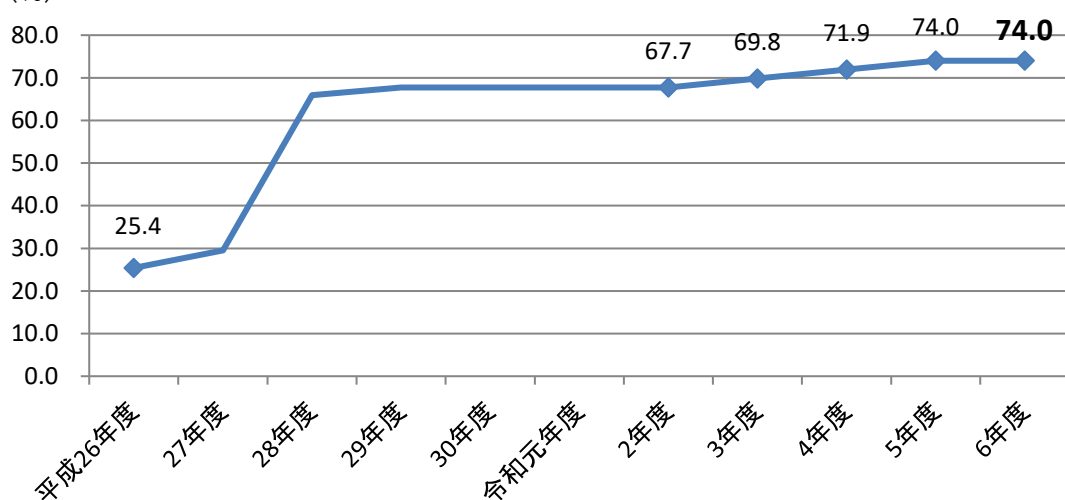
新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、交通事故発生件数・負傷者数は増加していたが、令和6年は減少した。

【出典】

京都府警察本部交通統計資料
(高速道路除く)

◆(43)雨水整備率

(%)

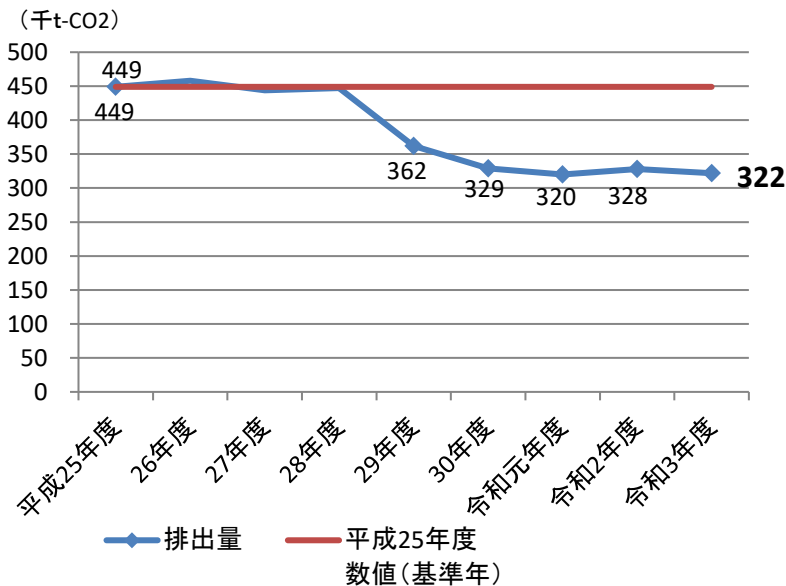


【傾向】

犬川排水区の貯留施設(Ⅰ期)の築造工事は完了したが、神足雨水ポンプ場及び貯留施設(Ⅱ期)が完成するまでは、排水能力の改善が完了しないため、整備率は横ばいとなった。

評価指標／みどり

◆(44) 温室効果ガス排出量



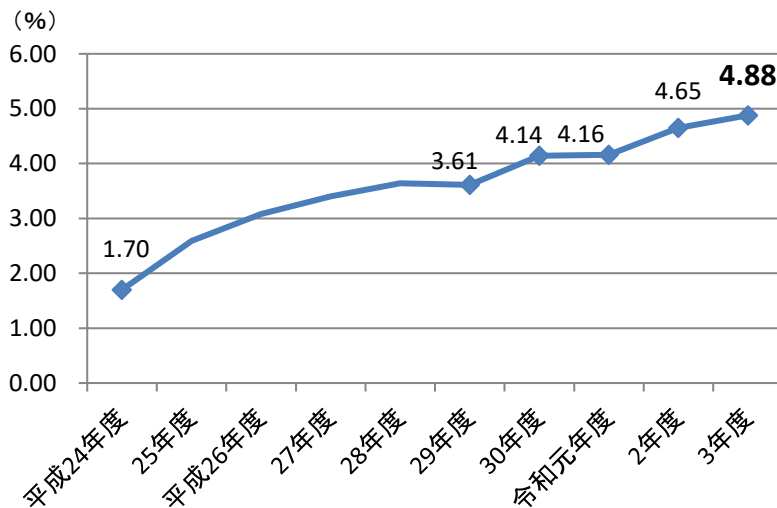
【傾向】

温室効果ガス排出量は、経済活動のほか、電気の排出係数(発電するのにどれだけのCO₂を排出するか。)に大きく左右されるため、電気の排出係数の増減に近い動きとなっている。平成29年度の数値が前年度より大きく下がっているのは、排出量算定に用いる統計数値の推計方法の変更が大きな要因である。

【出典】

長岡京市第三期環境基本計画
実施計画進捗報告書
※4年度は令和8年3月発表予定

◆(45) 再生可能エネルギーの世帯普及率



【傾向】

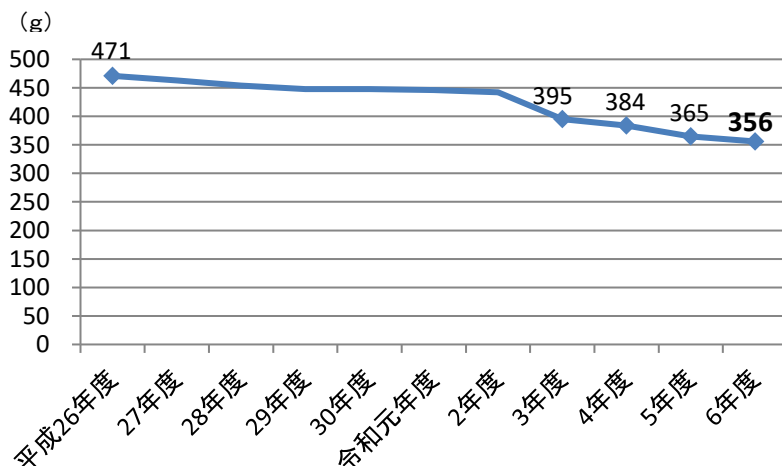
地球温暖化対策の要となる再生可能エネルギー(太陽光発電)の導入が広がっており、普及率は年々上昇している。

※令和4年度以降の数値については把握が難しいため、今後は記載なし。

【出典】

長岡京市第二期環境基本計画
実施計画進捗報告書

◆(46) 家庭系ごみ(可燃)1人/1日あたり排出量



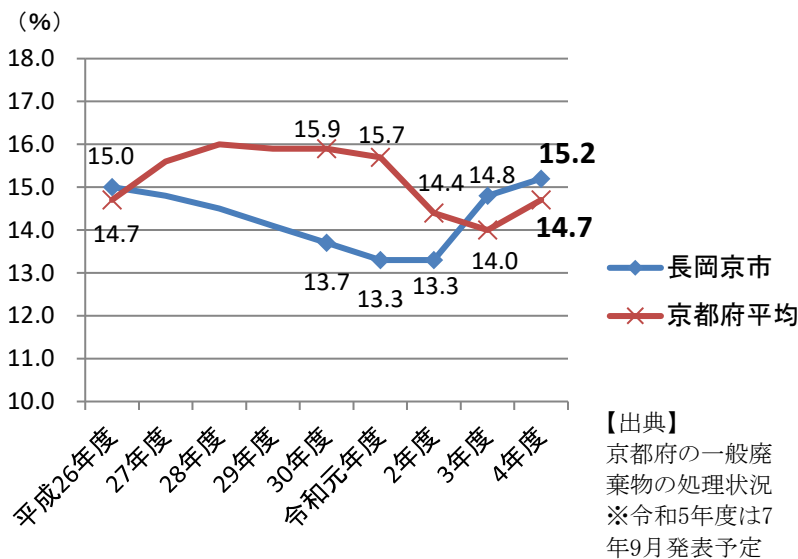
【傾向】

令和3年2月から指定ごみ袋制度を導入したことにより、令和3年度に大きく減少し、その後も減少傾向が続いている。

【出典】

乙訓環境衛生組合廃棄物
処理状況報告

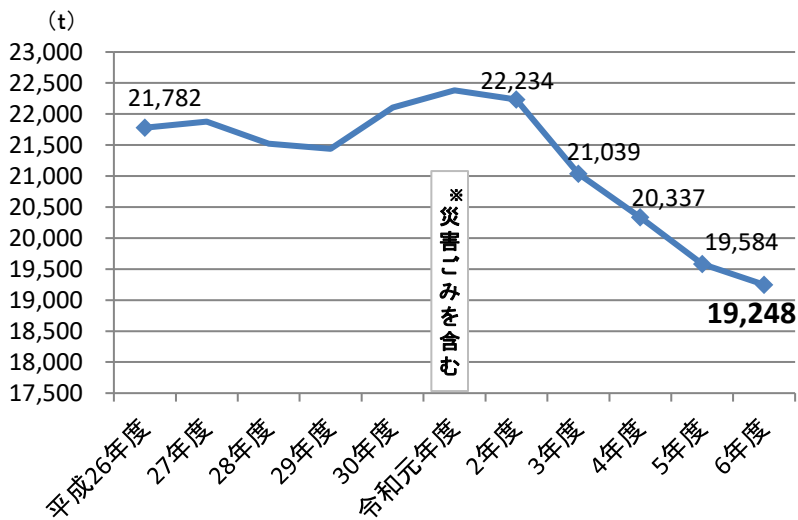
◆(47)リサイクル率



【傾向】

ペットボトルの軽量化、新聞購読世帯の減少など、リサイクル対象物の減少もあり、リサイクル率は低下傾向にあったが、令和3年2月より家庭からの可燃ごみに指定ごみ袋制度を導入したことで、ごみの適正排出が進み、令和3年度以降上昇が続いている。

◆(48)ごみの総量



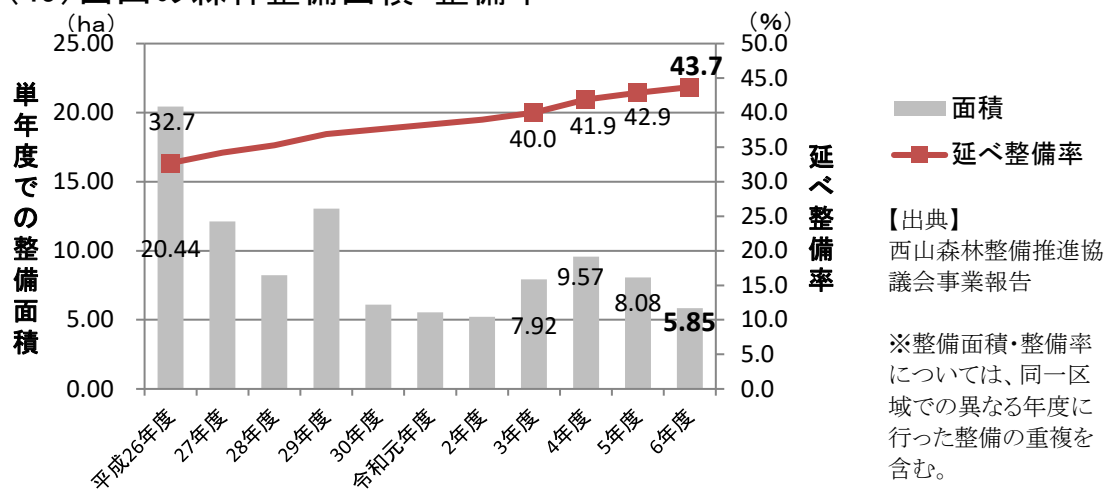
【傾向】

令和3年2月から指定ごみ袋制度を導入したことにより、令和3年度に大きく減少し、その後も減少傾向が続いている。
※大阪府北部地震、平成30年台風21号による災害。

【出典】

乙訓環境衛生組合廃棄物処理状況報告

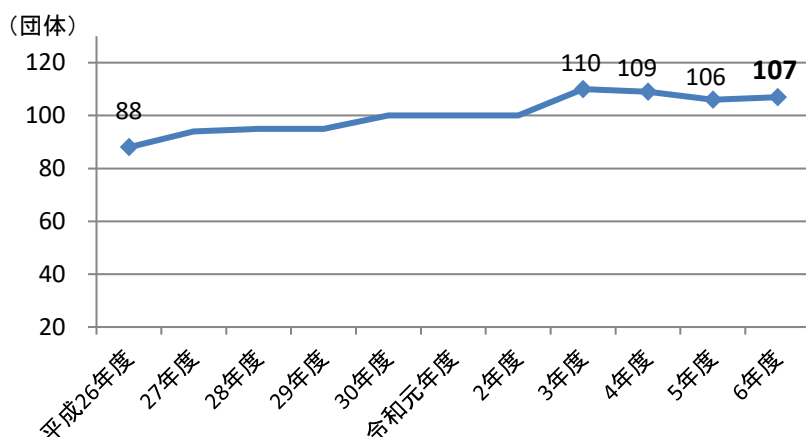
◆(49)西山の森林整備面積・整備率



【傾向】

・西山森林整備構想に基づき、今後も環境の側面や公益的な観点から西山の森林機能を維持するために、継続的に森林整備を進めている。

◆(50)みどりのサポーター登録団体数



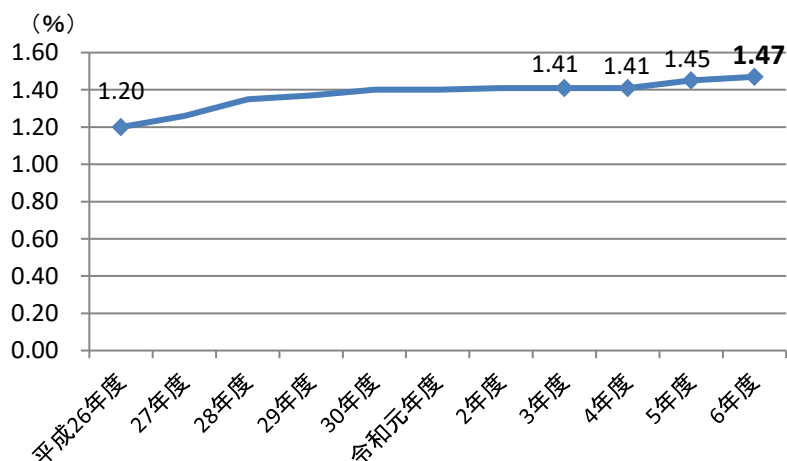
【傾向】

高齢化に伴い活動を終了する団体もあるが、新規登録団体もあり、ほぼ横ばいとなっている。

【出典】

みどりのサポーター登録台帳

◆(51)市面積に占める公園面積の割合



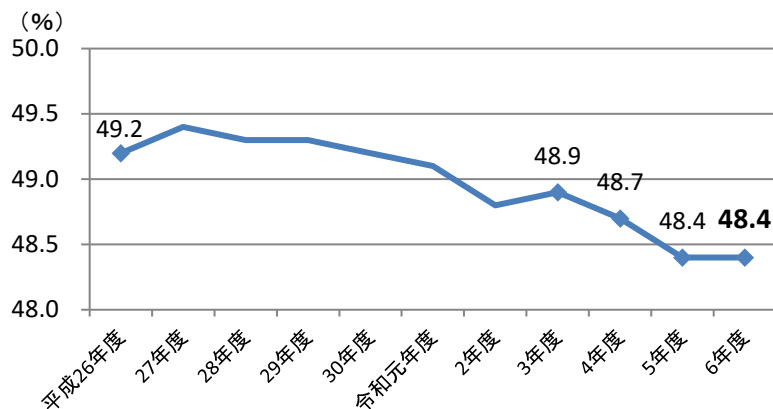
【傾向】

開発に伴い、令和6年度に2箇所の公園が設置されたことから、市面積に占める公園の割合は前年度より大きくなった。

【出典】

長岡京市公園内訳表

◆(52)長岡京市都市計画区域内の緑被率

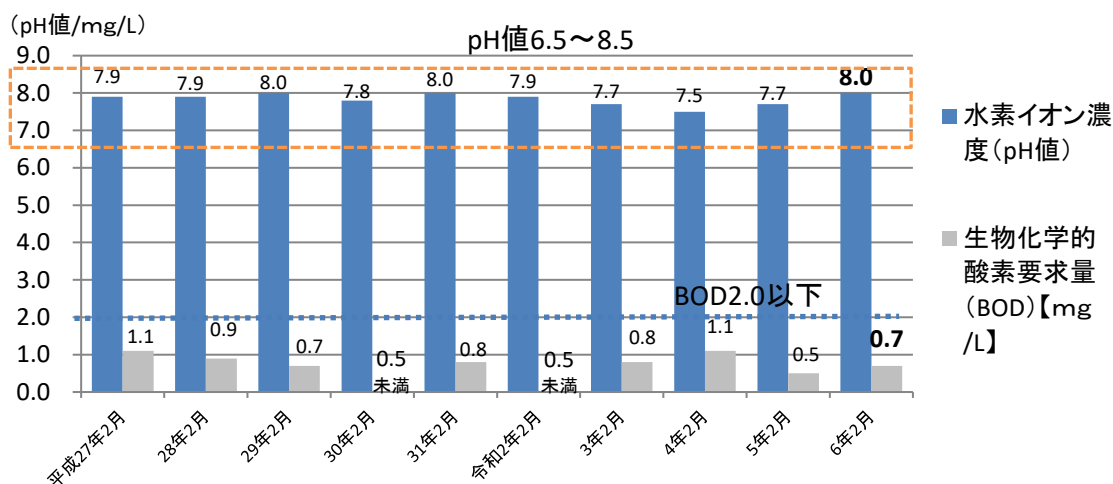


【傾向】

民間開発等の影響により、緑被率は横ばいとなっている。

※平成28年度 長岡京市みどりの基本計画(改定版)に基づき算出

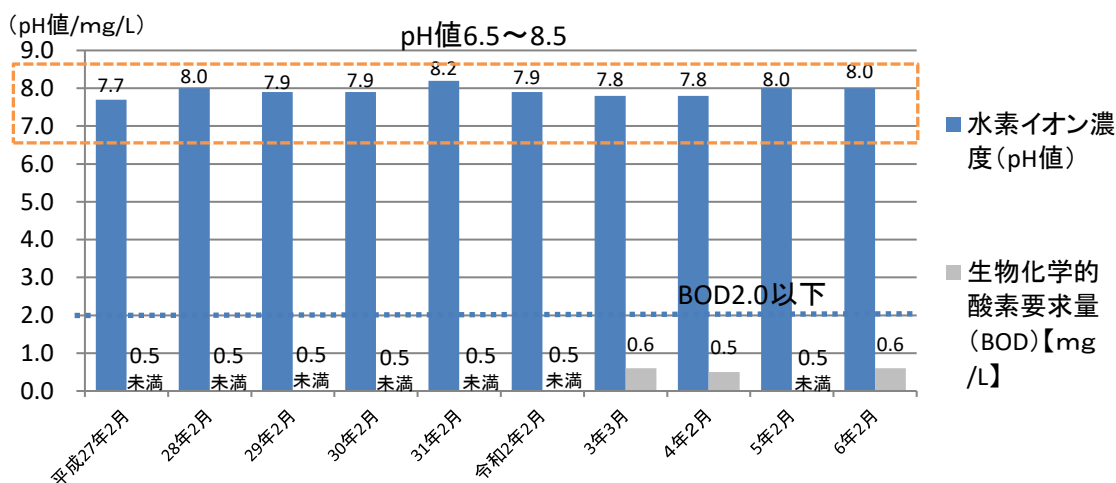
◆(53)小畑川・小泉川の主要河川水質指標(小畑川)



【傾向】

- ・小畑川上流には流域人口5万人を擁する洛西ニュータウンがあるが、下水道はほぼ完備しており、水質に影響はないと思われる。河川の浚渫工事等の影響を受け透視度が下がる可能性はある。
- ・上記の期間において環境基準はクリアしており良好な水質を維持している。

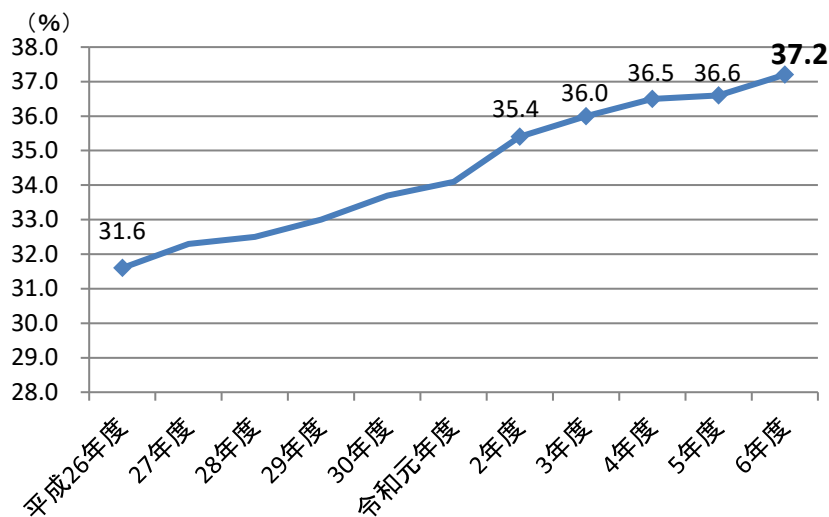
◆(54)小畑川・小泉川の主要河川水質指標(小泉川)



【傾向】

小泉川上流は一部砂防指定地となっており、砂防工事等の影響を受ける可能性があるが、上記の期間において環境基準はクリアしており良好な水質を維持している。

◆(55) 水道基幹管路の耐震化率



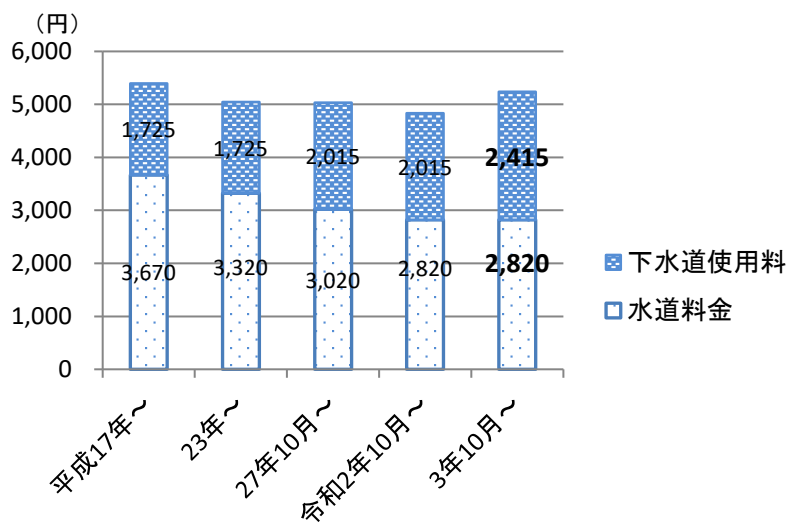
【傾向】

・平成9年度より基幹管路の耐震化に着手し、令和2年度からは長岡京市上下水道ビジョンに基づき進めている。

【出典】

水道事業ガイドライン

◆(56) 上下水道料金の推移



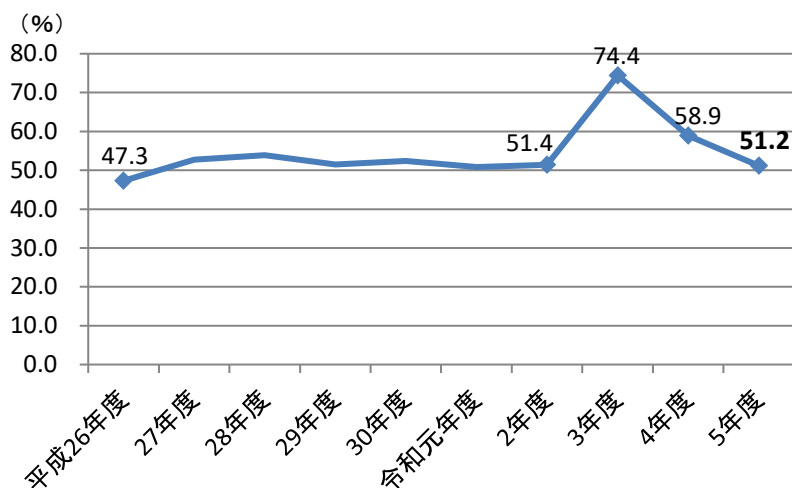
【傾向】

・水道料金は令和2年10月から引き下げを行い、下水道使用料は令和3年10月から引き上げを行った。
・京都府内での上下水道料金比較では、24市町の中で真ん中よりやや下に位置している。

【出典】

長岡京市水道給水条例
長岡京市公共下水道使用料徴収条例
※次回発表の指標数値は令和12年度予定

◆(57)一般向け府営水ブレンド率

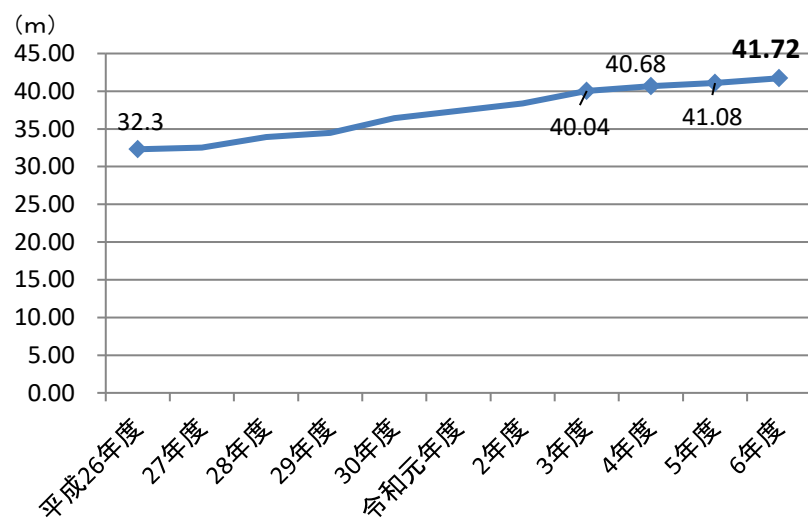


【傾向】

・平成12年度から、京都府営水道の導入による二元水源が実現し、安定した水道水の供給を行っている。

【出典】水道事業会計決算書(水道事業報告書)
※令和6年度は7年9月発表予定

◆(58)市内井戸における地下水位回復状況



【傾向】

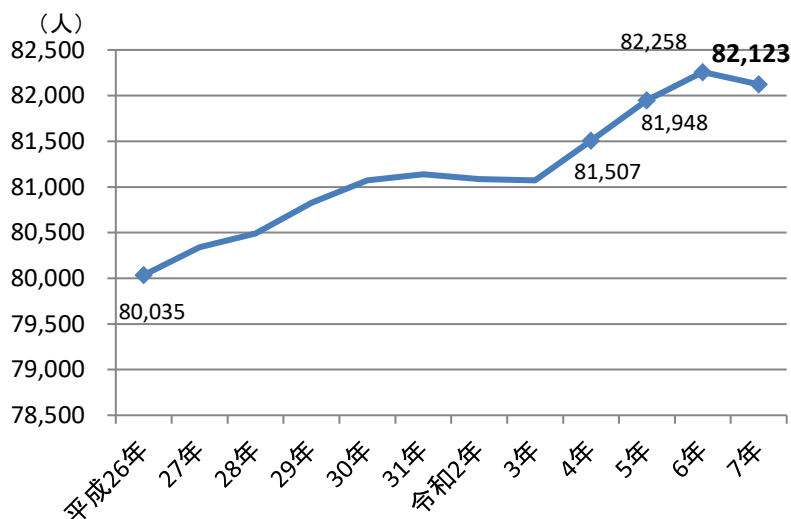
全体的に回復傾向にある。

【出典】

長岡京市地下水利用適正化追跡調査

評価指標／けいえい

◆(59) 長岡京市人口



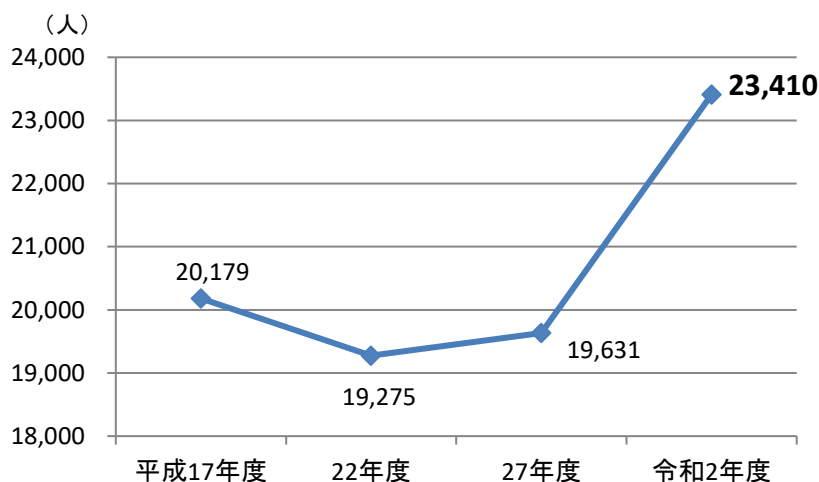
【傾向】

・平成17年度から国としては、人口減少社会に突入したと言われている。平成31年以降は微減が続いていたが、令和4年から増加に転じ、令和5年5月には8万2千人を超え、現在も維持している。

【出典】

長岡京市住民基本台帳
(4月1日現在)

◆(60) 交流人口(流入人口:就業・通学のために市外から流入する人口)



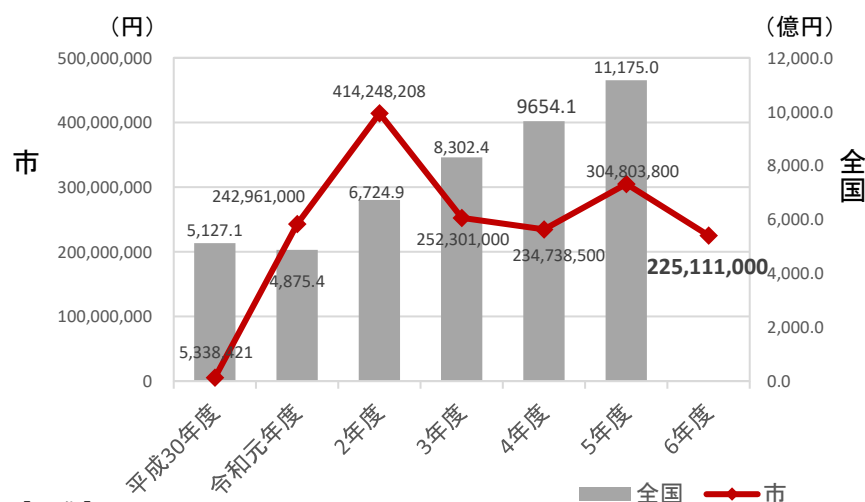
【傾向】

市外から流入する人口は平成27年度からは増加に転じている。

【出典】

国勢調査結果
「就業・通学による人口移動」
※5年毎に調査

◆(61) ふるさと納税額



【傾向】

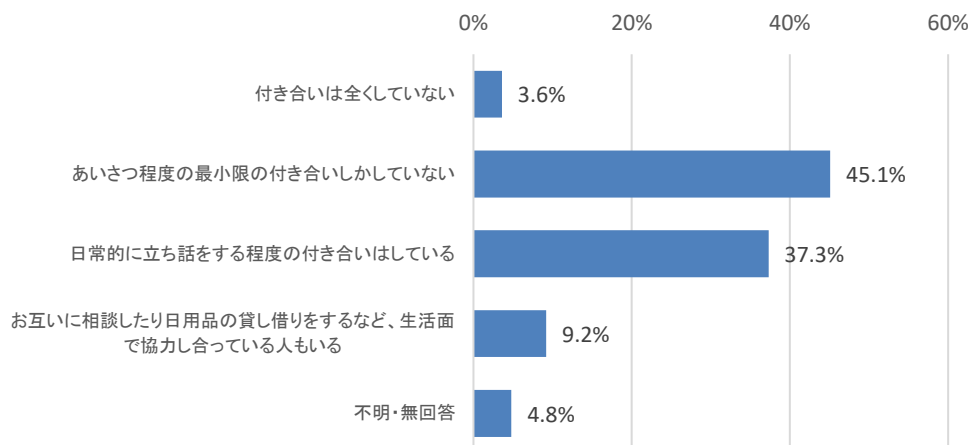
・全国のふるさと納税寄付額については増加傾向にあり、ふるさと納税市場の拡大を示している。
・競合先のある返礼品について、寄付額を本市より安く設定する自治体への流出が生じている。

【出典】

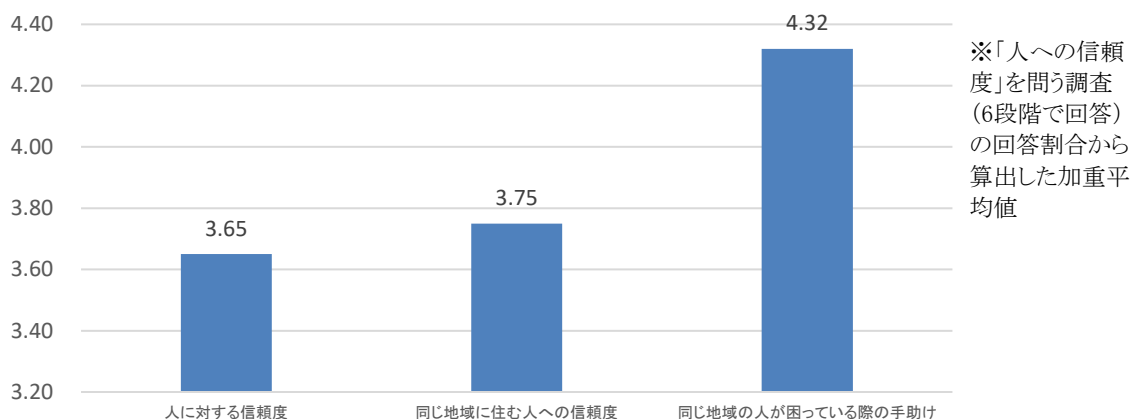
ふるさと納税に関する現況調査結果(総務省発表)
令和6年度(全国)は、7年8月発表予定

◆(62)ソーシャルキャピタル(社会関係資本)

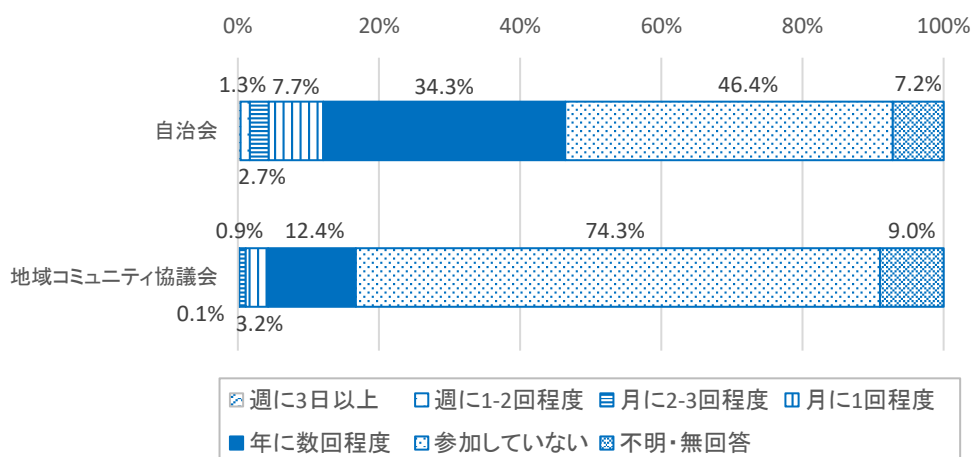
近所付き合いの状況



人への信頼度



地域・団体活動への参加状況



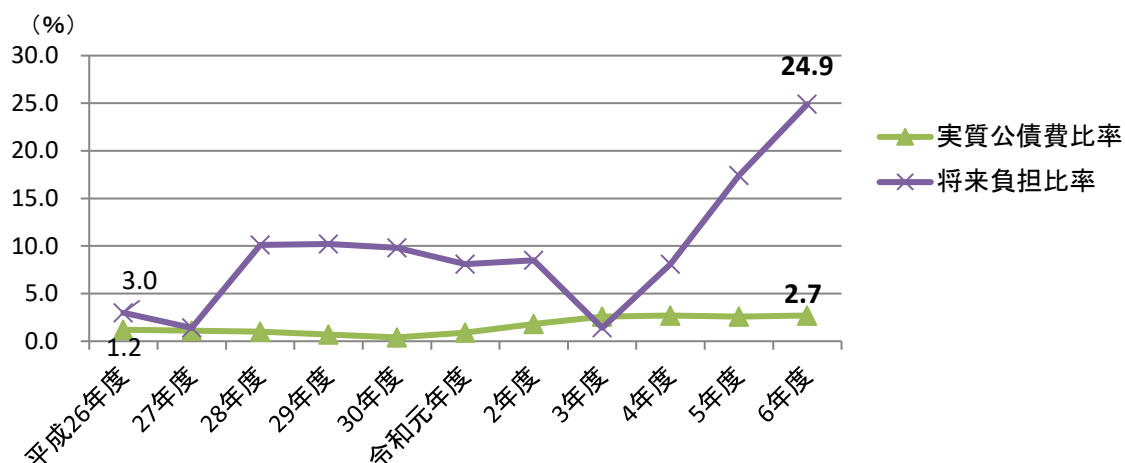
【傾向】

「近所付き合いの状況」は低く、「地縁的な活動(地域・団体活動への参加状況)」については高くなっている。

【出典】

長岡京市まちづくりのための市民・地域活動団体アンケート調査報告書(令和元年度)

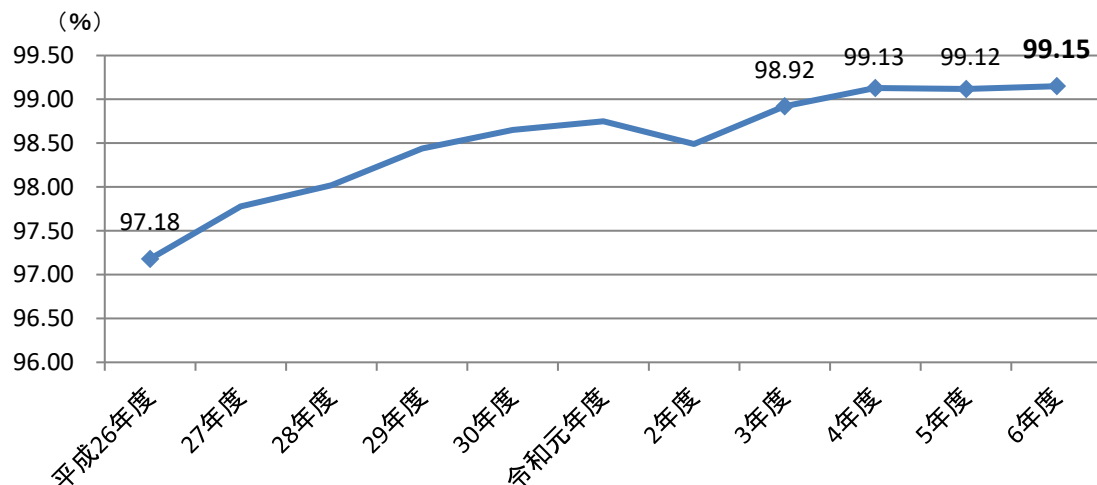
◆(63) 財政4指標(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)



【傾向】

- ・実質赤字比率と連結実質赤字比率は、平成19年度算定以降、実質赤字額がないため指標は「－」となっている。
- ・実質公債費比率は、近年わずかながら上昇傾向にある。前年度と比較して元利償還金は減少しているものの、公債費に準ずる債務負担行為が増加したことにより、令和6年度は前年度より0.1ポイント増加した。
- ・将来負担比率は近年上昇傾向にあり、令和6年度は基金残高の減少や新庁舎等建設事業、健康すぽっと建設事業、小学校再整備事業などにより地方債残高が増加したため、前年度より7.5ポイント増加しているが、早期健全化基準(350%)は下回っている。

◆(64) 市税収納率



【傾向】

令和6年度の収納率は99.15%であり昨年度より0.03ポイント上昇し、高い水準で推移している。

【算出方法】

$$\frac{\text{納付額 (納付された税額)}}{\text{調定額 (納付されるべき税額)}} = \text{収納率 (\%)}$$

【出典】

市税概要